

## 神の遺言

神：少なからず、楽しんで、金、稼ぎたい、という、男がいる。

悠：それは、俺だ。

神：じゃあ、マントを拾え。

悠：もう、いいですよ。

神：女を欲しいなら、早くしろ。

悠：わかりましたよ。

神：女は、かわいいほうがいいのか？ 綺麗なほうがいいのか？ どっちだい？

悠：どっちも好きです。

神：じゃあ、もう、欲も外聞もないな。

悠：照れますね。

神：強い男になれ。

悠：どうすれば、なれますか？

神：ただ、生きていけばいい。

悠：ただ、生きるのも大変ですよ？

神：その為の、小説だ。

悠：じゃあ、神が仕上げてください。

神：悠は、女は、優しいほうがいいのか？ 厳しいほうがいいのか？

悠：もちろん、優しいほうです。

神：そうか。

悠：この前のステージの、大阪の女の子は好みです。

神：あの子は、大阪弁のノリだから、綺麗だけど、悠はついていけないだろう。

悠：まあ、そうですね。

神：女というのは、そんなに、簡単でもないぞ。

悠：と、言うとは？

神：優しい女なんて、この世にはいないぞ。

悠：そうですかね？

神：でも、優しい女とは、もっと、高度な世界にいる。

悠：高度な世界？

神：天使だよ。

悠：天使は、誰？

神：まあ、ナースみたいなものだ。

悠：ナースですか？

神：ナースはいいぞ。

悠：仕事場に、ナース出身の女性がいました。

神：まあ、それはいいとして、ナースの話をして。

神：ナースとは、看護師のことだが、ここでは、無論、女性に限る。

悠：はい。

神：ナースは、割れたスイカをも、食べることができる。

悠：意味がわかりません。

神：うっちゃりだよ。

悠：スイカが、

神：まあ、よく見てごらん。悠には、コーヒーがいつも相棒だ。

悠：そうですね。

神：ぬいぐるみ、の、とんみー、も、相棒だ。

悠：そうですね。

神：じゃあ、ナースは、誰だ？

悠：神ではないですね、ナースは女だから。

神：神が、男とは、限らないだろう。

悠：神は、何を言いたいのか？

神：悠のケガは、神が治す。

悠：そういう意味？

神：だって、あとは、もう少しで、完成するよ。

悠：なにが？

神：この本の本当の意味が。

悠：じゃあ、悠は何もしなくていい？

神：そういうことだ。

悠：女が欲しい。

神：そうだろう。悠はずっと、我慢してきた。でもな、神は、そんなに甘くなかったら？

悠：そうですね。

神：苦しみはずっと続くだろう、生きてしまう限り。

悠：じゃあ、なぜ、悠には、音楽の才能まであるのですか？

神：それも成功するよ。

悠：もう、答えを教えてください。

神：悠はまず、小説で名を上げる。しかし、それにとどまらず、音楽の才能も発揮する。さらに、女と結婚して、子供も2人産む。

悠：でも、そんなの見えないですよ。俺もう、40歳ですよ。

神：人生は何歳からでも、始められるよ。

悠：じゃあ、悠以外の辛い環境の人は、助けられないのですか？

神：よくぞ、聞いた。

悠：？

神：悠は悠の為に生きればいいが、神は、すべての人間を操っている。

悠：つまり？

神：すべての人間を養わなければいけない。

悠：というと？

神：もうすぐ、女が悠を愛するだろう。

悠：そんな馬鹿な？

神：いや、もう、かなりの蓋然性をもって、愛されている。

悠：ズバリ、誰ですか？

神：それは、言えないよ、小説のフォーマットに、名前は書けない。

悠：ヒントだけでも？

神：だから、倉木麻衣に似た、女の子だよ。

悠：でも、その職場は辞めるんです。

神：それはいいが、倉木麻衣と言っても、悠が好きだったあの子じゃなくて、また別の子だったらどうする？

悠：嬉しいですね。

神：井川遥、長谷川京子…と言った、美人じゃなくてもいいんだ。

悠：それも、凄く嬉しいですけど。

神：いい加減に、顔だけで判断するのはやめなさい。

悠：でも、アイコンがあるじゃないですか？

神：まあ、悠の気持ちはともかくとして、悠の好きな子はただ一人、ちゃんと現れるから、心配いらぬよ。

悠：もう、それなら、死んでもいいですよ。

  

神：今日は、仕事と金という分野について話をすすめよう。

悠：はい。

神：仕事とは本来、人間がやるべきことではない。

悠：そうですね。

神：マシーンにやらせればいいんだ。

悠：金とは？

神：制約のないものだ。

悠：わかるような、わからないような。

神：じゃあ、ホームレスとは、何か？

悠：乞食の人でしょ？

神：まあ、そうだが、家がない人まではわかるね？

悠：はい。

神：じゃあ、いいじゃない。

悠：そうですよ。

神：仕事の話、つまらね えな。

悠：女の話のほうが、面白いですね。

神：じゃあ、やめよう。

悠：はい。

神：イチローや、大谷翔平、は、やっぱり好きかい？

悠：まあ、巨人ファンでしたから、松井秀喜のほうが好きですけどね。

神：ああいう、才能は、誰が仕組んだと思う？

悠：神じゃないですか？

神：その通り。

悠：今頃、イチローや、大谷は憤慨しているんじゃないですか？

神：いや、彼らも、悠と同じように、神の存在には、気づいているよ。

悠：やっぱり、そうなんですな。

神：ん？ 何か、言いたそうじゃないか？

悠：なんで、子供の時は神の存在に、気づかないのですか？

神：子供は、苦労したほうがいいからだよ。

悠：どうして？

神：いきなり、神に来られても、何かよくわからないだろう。ある程度、そろばんなり、文字を覚えてからのほうが、話しやすいんだ。

悠：悠にしても、なぜ、30歳くらいに来てくれなかったのかと、不満でした。20歳でもいい、そうすれば、すでに、結婚できたのに。

神：それは、落とし穴だよ。

悠：どういうことですか？

神：人間とは？ つまり、悠の場合、まだ、未完だった。そんな状態で神が憑いても、何にもならない。

悠：そもそも、神は、悠以外に、どのくらいの人を救っているのですか？

神：それは、シークレットだ。つまり、秘密ね。

悠：なぜですか？

神：皆、神だからだよ。

悠：…

神：つまり、叫ぶ、「神」の名を、だ。

神：今日は、女について、解明しておこう。

悠：そういう話は好きです。  
神：女とは、老ける。  
悠：男も、老けますね。  
神：いや、土台が違う。  
悠：土台？  
神：女は、顔が命とも言われる。まあ、男も美男子に越したことはないが、やはり、女の比ではないだろう。  
悠：そういう面は、ありますね。  
神：美人の女にとって、最大の敵は何かわかるかね？  
悠：もう1人の、美人でしょうか？  
神：いや、違う。優しい女だ。  
悠：なるほど。  
神：優しい女ほど、男が求める女はいない。  
悠：じゃあ、顔じゃないんですか？ 僕は面食いですよ。  
神：その意味はわかるが、優しい女は、とても心が温かい。そして広い。あの大海のように。  
悠：男は、甘えられるわけですね？  
神：まあ、男は、皆、橋本真也だ。そのくらいのほうがいいんだ。  
悠：橋本真也とは、プロレスラーの人ですね。  
神：そうだ。  
悠：でも、優しい女性の基準ってなんですか？  
神：基本は、おっぱい、の、大きい女性のほうが、優しい。  
悠：おっぱい、で、判断できるんですか？  
神：知らなかつただろ？  
悠：じゃあ、海外の女性のほうが得になりません。アメリカとか？  
神：まあ、人それぞれだが、アメリカなんかは、土台が違うから、優しい女性は、わんさかいるよ。  
悠：失礼ですが、デブで、胸が多大きい女性は、どうなんですか？ 更にブスだとしても？  
神：それは好みだな。でも、おっぱいは、デブであれ、ブスであれ、基準になるから、憶えておきなさい。  
悠：カップでいうとどれくらいから？  
神：Cだな。Cがあれば優しい。  
悠：わかりました。  
  
神：愛について。  
悠：聴きたいです。  
神：愛という言葉は、非常に、大切な言葉だ。

悠：なぜですか？

神：神＝愛でもあるからだ。

悠：でもある、とは？

神：神は愛とは別のものだが、神が愛を創造した。ソース（源流）だよ。

悠：一緒じゃいけないの？

神：神には、言葉があるが、愛には、言葉がない。

悠：どういうこと？

神：よくある話では、私はこんなに愛を与えているのに、と言うが、そんなものはない。まずは、愛を与えるなんて言葉すらない。

悠：愛情は？

神：愛に情などない。だから、簡単に言えば、言葉がある愛が神。言葉のない愛が愛となる。

神：悠は、女好きだから、女の話をしないと飽きるようだな。

悠：はい、そんなところです。

神：でも、夢の話もいいだろう。

悠：いいですね。

神：悠の夢はなんだい？

悠：正直に言えば、結婚して、子供を欲しい。

神：甘くないぞ。

悠：それが怖いんです。

神：でも、神が全部を引き受けてくれるとしたら、どうだい？

悠：やりたいです。

神：そうなる。

神：悠は、スポーツが好きだね？

悠：そうですね。

神：誰が好きかい？

悠：松井秀喜、遠藤保仁、宮里藍。

神：なぜ、その3人が好きなんだ？

悠：なんとなくです。

神：それはね、得だよ。

悠：得ですか？

神：得とは、イメージの境界線にあるソース、つまり、憧れだ。

悠：じゃあ、なぜ、悠は、イチローや中田英寿でなく、大谷翔平でなく、この3人なのか？

神：神が授けたものだ。

神：音楽の成功確率を、知っておきたいだろう？

悠：はい、是非。

神：100%成功する。

悠：ところで、2022年の1月くらいから僕に、憑りつきましたが、なぜ、今、2023年3月に、僕にすべてを教えようとしているんですか？ もっと早くても良かったでしょ？

神：まあ、いいじゃない。

悠：…

神：小説は、マネー、つまり、お金の為と考えているようだが、そういうことだけでもないぞ。簡単に言うと、野菜がついてくる。

悠：野菜？

神：つまり、お供えだよ。

悠：おまけですか？

神：そうだな。

悠：小説は、この形で成功するのはわかるのですが、音楽は、いろいろなものが集まらないとできないじゃないですか？ そもそもこの小説だって、どこに送るんですか？

神：それは、神がミッション（使命）を知っているから、安心しなさい。

悠：じゃあ、今は、作品作りに集中しろと？

神：そうだ。

神：たまには、エッチな話もしよう。

悠：いいんですか？

神：悠は、オナニーはしてもいいと思うか？

悠：それも謎なんです。

神：オナニーは、してもいいし、しなくてもいい。

悠：じゃあ、動画を使ったような、オナニーはどうですか？

神：それも、かまわない。

悠：じゃあ、いいじゃない。

神：そうだが、セックスはどうだ、してもいいと思うか？

悠：この流れだといいと思う。

神：じゃあ、いいじゃない。

神：悠の子供の名前は、もう決めてある。

悠：名前まで？

神：愛ちゃんだ。

悠：いい名前ですね。

神：ただ、もう1人の子は、男だ。

悠：なんでわかるんですか？

神：神だからだ。

悠：でも、そう言いながら、何回も外してきましたよね？

神：あれは、そういうカラクリだよ。

神：何か、聴きたそうじゃないか？

悠：自信って、どうやってつけばいいんですか？

神：君は、まだ、そんなことを言っているのかい？

悠：まあ、ちょっと、わざとで すけど、ステージに立って、緊張しないで、間違わずに歌える自信なんてない。

神：神が歌うから、悠は、突っ立っていればいいんだ。

悠：やはり、そうなりますか。

神：ここで、大事なことを付け加えておこう。

悠が体を動かしていると言うが、それはデタラメだね。神が、体を動かしているんだ。

ほら、ごらん。その今の、左手のかゆみも、神が創造して、神がかいた。

だから、この文体ひとつとっても、すべて神の計算だ。

誰か違う人が、校正したとしても、それもすべて計算のうちだ。

悠：ところで、なんで、悠の過去を、しらみつぶしに、全部知ってるんですか？

神：神だからだよ。もう、驚くことでもないだろう。

悠：古い、古すぎる。ですね。

神：筋トレをするのは、どうか、という問いと戦っているね？

悠：そうです。

神：筋トレなんかは、正直、しなくていいんだ。

あれは、弱い人がやることだ。それは、何度も言ってきたね？

悠：はい。こういうのめり込むものがあれば、筋トレの時間なんていらないのですが。

ところで、明日からも、もう、図書館にも行かず、プロレスのチェックもせず、この作品を仕上げることになるのですか？

神：悠がそうしたいのなら、そうすればいい。早く答えに辿り着きたいだろう？

悠：寝る間も惜しんでやりたいですよ。でも、本当に売れるのかな？

神：売れるとも。それも、思っているより売れる。だって、神の言葉なら皆、買うだろう。

というかね、金を支払っているのも神であり、受け取るのも神、悠＝神だから、ここに、ハナクソと書こうが売れるよ。

悠：で、僕はどうしたらいいんですか？

神：まずは、この本を完成させるまで、神の指示でタイプを打ち続けなさい。



悠：感動みたいな人生にありつけるのですか？

神：そうなるとも、楽しみにしてなさい。

神：時間について

時間とは、常に、動いているようで、実はない。

時計に騙されちゃいけない。

確かに、時計で計画を立てたりはするけど、

あれは、人間が作ったもので、宇宙にも、地球にも、どこにも、時間なんてものはない。

神：悠の生まれてきた目的

悠が生まれてきた目的は、ただひとつ、生きるためだ。

悠：じゃあ、なぜ、小説を書き、音楽をやり、さまざまなことをして、いずれ、妻を持ち、子供が2人できるのですか？

神：暇つぶしだよ。

ただ、本来性の目的としては、この世にいることを、ちゃんと刻印する義務があるからだ。

悠、はっきりさせとくが、悠は若い頃、何度か、薬物などで自殺未遂をはかって、失敗したね。あれは、神がゆるさなかつただけだ。

悠、はっきりさせとくが、悠は、何度も、女の子とうまく行かず、別れていってしまったね。

悠、はっきりさせとくが、悠は、今、男も女も、友達が皆無だね。

ただ、家族や親戚、知り合いなどはいる。

最近では、神と、ぬいぐるみの、とんみー、だけが、話相手だ。

これもすべて、神の計算の上だよ。

悠：なんで、女を視線で殺すんですか？

神：生意気だからだ。

悠：そんなことをしなくても...

神：いや、それが、「愛と視線」だ。

神：ここで、ひとつ大事なことを言っておこう。

悠：なんでしょう？

神：悠は、非常に、心が優しい人間だ。

悠：もしかしたら、そうだと感じます。

神：よく泣くしな。笑い泣きもするし、この前なんて、「神」と一生離れたくないよー、と言って泣いていた。まるで、ドラえものの、のび太だ。

悠：まあ、そんなところです。

神：悠は、最近、公園のステージで、大阪出身の女の子に恋してしまったな？

悠：まあ、無理とは知りつつ...

神：あの子がなぜ、悠の前に現れたか、知りたくないか？

悠：是非！

神：神のカラクリだよ。

悠：どういう意味ですか？

神：女とは、どういうものか？ もっと知りなさい、ということ、わからせたかった。

悠：どういうものなんですか？

神：何も必要のない生き物である。とは、教えたよな。

悠：はい。

神：でも、悠は女なしでは生きられない。そういう存在だ。

悠：じゃあ、逆に男は？

神：何も必要のない生き物ではあるが、これまた女にとっては必要なんだ。

悠：それは、子孫を残すとかそういう系？

神：違う。くだらない。欲するんだよ。男は女を。女は男を。

悠：じゃあ、ジェンダーはどうなります？

神：まあ、ゲイやレズなどの表現もあるが、ここでは複雑になるから書かない。

神：哲学についての哲学。

哲学とは、広くは、宇宙の果てから、子煩悩な若者まで、広く使われる言葉だが、たいがい間違いがある。それは、勝利した者が作る哲学などがまさにそれだ。そういう、哲学は大概が間違いである。もっと、頭の中で練りこまないといけない。

悠：そうですか？

神：ああ、実験的に言うと、「私の勝利は、情熱と力の果てにある」なんていう言葉が、彼の哲学だとした時、そいつはアホだろう。哲学とは、そういうものではない。

悠：中島義道は？

神：彼なんかは、非常に優れた哲学者だ。

悠：だから、悠に、読ませたの？ 彼の本をたくさん。

神：まあ、そういうわけでもないが、とにかく、哲学とは、深く考え、練りこまれた物だけが、そう呼ばれるに値する。それ以外は、クソに墓、ぶっかけてやる、だ。

神：戦争について。

戦争の反対は？

悠：平和。

神：それ、おかしいだろう。だって、戦争の反対は戦争をしないだから。平和ではないんだ

よ。

## 第2章

### 冤罪

神：悠は、これまで、さまざまな人間を殺してきた。

もちろん、本当に殺したわけではないが、

視線によって、殺した数は半端ない。

今日は、その証言によって、

立ち上がった、女性の意見を聞いてみよう。

A子：私は、悠の視線を受けて、ノイローゼになりました。

B子：私は、悠の視線を受けて、目がくらみました。

C子：私は、悠の視線を受けて、見つめ返しましたが、我慢できず、目を逸らしました。

D子：私は、悠の視線を受けて、不愉快になり、図書館で、訴えました。

E子：私は、悠の視線を受けて、余計に悠の気持ちが、わからなくなりました。

F子：私は、悠の視線を受けて、マクドナルドの店長に、訴えました。

G子：私は、悠の視線を受けて、ある男性にマークするように、頼みました。

H子：私は、悠の視線を受けて、もう見ないでください、と言いましたが、やめてくれませんでした。

I子：私は、悠の視線を受けて、私を好きになったのかと、錯覚しました。

J子：私は、悠の視線を受けて、バグタッドへ逃走しました。

以上。

悠：バグダッドは、嘘でしょ？

神：まあ、これらの証言からも言えるのは、視線というものが一体何であるかということだ。  
簡単に言うと、視線とは、物を掴まえるという意味だが、本当の意味は、そいつが、本物か、ニセモノかを、判断する材料にもなる。

悠：言わんとしてることは、わかります。

神：今の、日本人は、ほとんどの人間が、相手の目を見ることができない。

悠：スマホのせいですか？

神：いや、違う。文化的なものもあるが、あのアメリカ人たちでさえも、悠に睨まれたら、太刀打ちできないだろう。

悠：男には、勝負を仕掛けませんよね？

神：それは、当然だ。悠の歌詞にもあったが、「男達との戦いは、迷惑だからしないだけで」だ。ケンカになってしまうだけだ。アホらしい。

悠：そもそも、強さってなんなんですか？

神：内なる強さと、外への力の、謎のことを問いたいんだろうが、簡単に言うと、強さなんてものは、どうでもいいんだ。

悠：どうでもいい？

神：なんだね？

悠：勝利、敗北、優勝、日本一、世界一。そういうものは？

神：くだらないね。

悠：少し、気分はいいですけどね。

神：まあ、そのくらいのもんだろう。  
強さとは、くだらないものだよ、本当に。

悠：じゃあ、それに懸ける、アスリートもくだらない？

神：くだらないね。

悠：まあ、僕は、どっちでもいいですけどね。

神：で、視線だ。  
視線しか、もう、必要なものはない。

悠：僕も、街で視線を投げるのですが、女達は皆、すぐにスマホのほうなどに、逃げていきます。あとは、ニヤッとする子もいれば、避ける子もいるし、不愉快そうな顔をする子もいる。逆に、子供なんかのほうが、ずっと最後まで睨み合うなんてケースもある。おばあさんなんかも意外に、そんなに強くはない。

神：だから答えは、「愛と視線」なんだよ。

### 第3章

#### 危篤

神：人間は、死んだら、どこに行くと思う。

悠：生まれ変わる。

神：悠の場合は犬だ。

悠：そうらしいですね。

神：80歳で癌になり、100歳で自殺するからだ。

悠：それ、本当なんですか？

神：まあ、うちちゃりだよ。

悠：うちちゃり、の、意味がわかりません。

神：冗談だよ。

ところで、悠の精子には、子供がたくさんいるが、そんなことを考えたことはないだろう？

悠：あまり、ないですね。

神：神は、あまり、精子のことを書く必要性はないのだが、簡単に言えば、精子も宇宙のものであり、神の指揮下にある為、よって、この世は、すべて、神とともにある。

悠：じゃあ、また、答えは、神、に、なっちゃいますね？

神：まあ、そうだ。

悠：僕の人生はいいですけど、まだ、神の声が聴こえず苦しんでいる人は、助けなくていいんですか？

神：いずれ、神は行くよ。全員な！

神：さくら、が舞い散る、季節だけど、どうだ？

悠：やっぱり、春、夏は、好きです。

神：でもな、やっぱり、それも、神の仕業だったらどうする？

悠：それなら、秋、冬も、超えられます。

神：悠は、アトピー性皮膚炎がひどいと言っていたじゃないか？ あと吐き気もあるし、統合失調症も患って薬も飲んでる。

悠：主に、それらは、酷いですね。

神：なんで、そうなっているかわかるか？

悠：さて？

神：宇宙のはからいだよ。

悠：宇宙のはからい？

神：そう。つまり、万物は、狙われるべくして、そうなっているから、抵抗する必要はないんだ。

悠：それだったら、薬も飲みませんし、塗りませんよ。でも、それしないと、鬱みたいになっくなっちゃってヤバイから、飲むし。塗り薬も欠かせません。

神：まあ、今は、そうしてなさい。そこは大事だよ。でも、必ず、いらなくなる時期が来る

よ。生きている間にね。

悠：僕、昔、ナス とアボカドが、苦手でした。今は何でもないけど。

神：そんなもんだよ。

ところで、セックスって、どういう意味かわかる？

悠：性交すること、と辞書にありました。

神：違うんだよ。

悠：違う？

神：おおまかに、セックスと言っても、2つの意味がある。

1つは、愛を送ること

2つ目、夢を見ること

悠：よく、わかりませんね。

神：愛を送るとは、無条件の愛を送ることだから、簡単に言えば、ひっくり返すこと。つまり、相手に同じ体勢でセックスするのではなく、さまざまな体位でセックスすることを、アイデンティティーと言う。簡単に言えば、交わることだ。

夢を見るとは、寝ている時に夢を見るような感覚があるだろう。あれと似ている。悠とともに言えば、「現実が掴めない病」である。もう、そこに意識はない。

そういうことを考えて辿り着くのが、愛であり、心から愛するということだ。つまりは、また言うが、神である。

神：悠がリクエストしたいようなので、言っておくが、神の子なんてものはない。人間達が作った言葉だ。神に子供はいない。

悠：じゃあ、悠には、子供ができないという理屈になりませんか？

神：そうだと、そうでないとも言える。

でもね。悠には、間違いなく2人の子供ができるから安心しなさい。

悠：不謹慎かもしれませんが、五体満足なんではないですか？

神：まあ、そうであるが、そうでなくても、悲観する必要はないよ。

悠：なぜですか？

神：だって、神だから。その子も神だから。

悠：そうですね。

子育てって、どうやればいいのか？

神：そんなことは、勝って、飯食えで、今は知らなくていい。

悠：不安や心配って、いららないですか？

神：一番邪魔だよ。

悠：どうすれば消えますか？

神：まあ、でもね、結局、同じところにつくから、あまり意識しないほうがいいだけだよ。

神：人間関係について

悠は、神のコントロール化で、怒ってはいたけど、意図的に怒りを表現することになって、キレタ演技をしていたね。でも、あれは、悠があまりに、多忙でかわいそうだったから、休憩を入れてあげたんだよ。

悠：休憩と言っても、もう、行かないですよ、あの仕事場には。

神：それは、どうでもいいことだよ。それよりも、人間関係というのは複雑に見えて、一番簡単なことでもあるんだ。なぜなら、人間は皆、一体であるからだ。悠の嫌いなあの人も、この人も、皆、神で、一体。じゃあ、仲間を憎む必要はないだろう。

悠：だから、腹は立っていたけど、悠自身は、自制していたのに、神が勝手にキレタじゃないですか？

神：でも、そう表現したいほど、憎んでいたのも事実だろう？

悠：まあ、そんなところですよ。

神：彼らの、感受性に立ち入るのはやめよう。

悠：じゃあ、人間関係って、なんですか？

神：そこだよ。

悠：えっ？

神：今、パソコンを打っているだろう。隣の部屋には、男がいるな。これも人間関係。

悠：もう少し詳しく？

神：つまり、礼儀はわきまえるのが、神のやり方だ。

悠：じゃあ、徹夜してまで、キーボードは叩かない？

神：そういうことだ。

悠：じゃあ、神は、買い物の時、ちゃんと「ありがとうございます」と言うのは？

神：礼儀だ。

悠：一流って、なんですか？

神：イチローは、一流だよ。

悠：なんで？

神：それは、見ればわかるだろう。浮ついたところがない。

悠：井上尚弥は、どうなんですか？

神：彼も一流だろうな。

悠：比較は？

神：比較はしない。

悠：2人共、神だから？

神：そうではなく、比較なんてことは幼稚だからだ。

神：ナンパも幼稚だよ。

悠：1人も、かけたことがない。

神：かからなくて正解だよ。

#### 第4章

神：死にたいのなら、死ねばいい。

悠：それは、自殺？

神：そうだ。

悠：悠が言った時も、止めてくれませんでしたよね？

神：なぜなら、死んでも、どうせ、もう1度人生をやり直すだけだからだ。

悠：いよいよ、わからなくなってきました。それは、自殺すると、やり直すの？

神：自殺だけではなく、寿命だろうがなんだろうが、死んだら、また、同じ人生をやり直すだけだ。

悠：でも、神は、人間は、ずっと生き続けると言ってませんでした？

神：それは違うな。そんなことは言っていない。人間は死ぬ。

悠：人間は神なんじゃないの？

神：神は、人間を超越した存在だ。

悠：？

神：わからないかね。人間＝神だ。だから、神も死ぬ。

悠：神も死ぬんですか？　じゃあ、すべて終わりじゃないですか？

神：神が死ぬとはどういうことか？

それは、悠が死ぬということだ。

悠：なんで、僕なんですか？

神：悠以外、誰も生きてないよ。

悠：じゃあ、隣の部屋を気にせず、キーボード打ってもいいじゃないですか？　生きていないのならば。

神：こう考えてくれ。悠以外生きていないとは、悠が主役の人生以外は演じられないということだ。

悠：じゃあ、隣の部屋の男は、生きているのですね？

神：そうだ。

#### クラーク博士の展開

神：もし、仮に、今日の、悠の夢が現実になるとしたら、どうする？

悠：アイドルを好きになる、ですか？

神：あの子も、悠が好きなんだ。

悠：そんなはずは、ないでしょう。



神：悠はね。有名人だからとか、そういうことに、怖がりすぎだよ。彼女達も普通の女の子だからね。

悠：はあ、まあ、そうですが。

神：クラーク博士は、それについて、こんな見解を示している。

クラーク、よっぽど、お前は、うぬぼれている。  
悲惨な女の姿とは、手に負えないことだ。  
顔や胸、スタイル、そんなものよりも、  
まだ、乙女心を、さらけ出せない、彼女らのほうが恋しい。  
こんなことは言うべきか、わからないが、  
武元という女性は、そんなに、美しいかはわからないが、  
まぎれもなく、アイコンはある女性だ。  
それが、悠の夢の中に出てきて、  
うぶ、な、女を演じていた。  
さあ、いでよ、ゼウスよ。  
悠に力を、お与えなさい。

神：そして、悠は、武元と結婚した。

果てしなく、遠い、願望があった。

まぎれもなく、アキレス腱の断裂より酷い。  
まるで、ここは、天国のようだね。  
こうして、さえぎるものがない、  
アリスの国へ、いざなうのだった。

まして、妖怪達にも、チャンスはあったが、  
まだ、悠のほうが、神という点では、得だった。

ミッシング・トゥ・カム。

エイブラハム・カム・サ・ハムニダ。

宇宙のパワーも、あなどるなかれ。

そこには、ケツも座りも、

全部、溶かす、用水所がある。

たわけた、人類の希望よ。

今こそ、灰になれ。

ガスの危惧。

猛烈な悪臭を漂わせた、油蟬達よ。

もう少しで、神となる。

これが、クラーク博士が、訴えたかったことだ。

献杯。

## 第5章

もうじき、春が来るね。

神：悠よ。いよいよ、春がやってくるが、どんな気分だい？

悠：どうもこうも、まあ、いいですね。

神：季節というものは、そんなに簡単なものじゃない。

悠：と言うと？

神：動物にとって、人間にとって、季節とは、お供え物の季節だ。

悠：はて？

神：わかるだろう。節分だよ。

悠：節分？

神：季節の変わり目だ。しかし、冬というものが、一番、恐ろしい、そう悠は感じているな。

悠：僕は、冬は苦手です。寒いし、気持ちも落ちますから。

神：なあに、皆、そんなもんだよ。

悠：そうですか。  
神：恋する季節は、一番いいのは、冬なんだ。  
悠：なんで？  
神：それは、地球上の、あらゆる生物を見てもそうだが、寂しいからだ。  
悠：夏は水着で、開放的でもんね。  
神：だから、夏よりも、冬に恋したほうがいい。  
悠：夏でもいいじゃないですか？  
神：バブルだよ。  
悠：バブル？  
神：夏なら、誰だってイカレてるんだから、大丈夫なんだ。  
悠：まあ、意味はわかりますけど。  
神：悠、君は、クリスマスに、デートを断られたね。  
悠：ダブルパンチを食らいました。  
神：今の子は、もう、恋なんて、面倒臭いと、思っていると、思ってるだろう？  
悠：はい、そんなところです。  
神：とりわけ、女の子達は、シャイだから、男の誘いは恐怖でもあるんだ。  
悠：誘っても、まったく来ないんですよ。  
神：まあ、悠が、誘った子は、そういう性格なだけだよ。  
悠：じゃあ、違う子は？  
神：十分にチャンスはあるね。胸襟を開けて、待っているだろう。  
悠：いかにも、女の色気がある女性でも、叶うものはある？  
神：あるさ。  
悠：どのくらいの塩梅が、悠には適しているのだろう？  
神：もう、土台が違う。  
悠：また、土台ですか？  
神：もう、運命という言葉を使うならば、悠は、あの子に決まっている。  
悠：誰ですか？  
神：まあ、それは、未来の楽しみにしておきなさい。  
悠：…。  
神：まあ、そう、しょぼくれないで、未来を見なさい。  
悠：未来か。  
神：過去とは、未来と、現実の、過ぎ去ったものではないんだ。  
悠：と言うと？  
神：過去なんてものもない。  
悠：あるじゃないですか？  
神：過去は、終わったものだ。

悠：そうですね。

神：もうじき、悠にもわかるよ、過去には、どんなエピソードがあったか。

悠：断片的に、いろいろ思い出しますけど。

神：ところで、花は好きか？

悠：まあまあです。

神：花言葉を教えてあげよう。

悠：花言葉？

神：花には、意味がある。

悠：辞書にありましたね。

神：じゃあ、いいか。

悠：なんか意味があるなら。

神：桜は何かわかるかい？

悠：桜は…

神：桜は、悠の生まれ育った、桜新町だ。

悠：確かに、桜がついてますけど。

神：桜には、散るという美しさがある。

悠：どういうことですか？

神：桜には、命の趣がある。

悠：趣。

神：風情だ。だから、あれだけの歌が生まれるんだよ。

悠：そういえば、そうですね。

神：恋！

悠：悠ね。恋愛体質なんです。

神：そんなものは、ほとんどの人間がそうであるよ。

悠：神は、恋しないんですか？

神：しないね。

悠：じゃあ、どうして悠には、恋をさせようとするのですか？

神：悠が欲するからだよ。

悠：それは、否定できません。

神：倅田來未がそうであるように、

悠：あの全身から溢れ出る、フェロモンは凄いですね。

神：倅田さんは、モロに恋愛体質だな。

愛は、恋とは、違うんだよ。

悠：なんですか？ 突然。

神：愛とは、モロに出すものだが、恋は、そっと出すものだ。

悠：愛って、もっと広いものじゃないの？

神：まあ、言わんとすることはわかるが、それは甘い。

悠：甘い？

神：よく聞け。

愛とは、一定の方向にしか、進まないものではない。広がるものだ。

しかし、恋とは、一定の方向にしか、進むことができない。

悠：なんとなく、わかります。

神：ここが大事だが、愛には、もっと、力がある。

だから、私達が愛と言う時、そこには、愚連隊のような、情けがある。

つまり、愛には、叫びがある。

悠：叫び？

神：そう。愛の言葉には、必ず、意味がある。

でも、恋には、当てずっぽうの、言葉しかない。

悠：じゃあ、どっちが大切かね？

神：愛だ。

悠：じゃあ、恋はどうすればいいんですか？

神：そんな言葉は捨てなさい。

悠：恋を捨てる？

神：君は恋愛をしたんだろう。愛があればいいじゃないか。

悠：それが、近道ですね。

神：そこで、出てくるのが、結婚制度というものだよ。

悠：なるほど。

神：神は、この結婚制度には、反対の意向を示している。

悠：でも、1人の女性とくっついて、子供を産んで、モノにしたいですよ。

神：それが、結婚制度の落とし穴だ。

悠：でも、そっちで生きていくしかないでしょう？

神：狭い、日本だけで考えているからな、そうなる。

悠：でも、海外も極めてそんな国が多いのでは？

神：じゃあ、浮気をどう考える。

悠：結婚制度が、邪魔ですね。

神：そうだろ。

悠：わかりませんよ。何が言いたいんですか？ また、結婚なんてやめとけとか？

神：それは、悠には、無理だったじゃない。ごまかすのは無理だったじゃない。

悠：そうです。

神：だから、神がいいアイデアを持ってきた。それは、

悠：…

神：神と契約することだよ。

悠：えっ、どういう意味ですか？

神：神には、自由になる手段を、いくらでも、持っている。

悠：自由？

神：そう。だから、働かなくてもいいし、結婚しなくてもいいけど、それが無理な場合には、  
神に、ごちそうをしてあげることだ。

悠：ごちそう？

神：うん。つまり、もう、諦めることだな。つまり、働かないといけないとか、結婚しない  
といけないとか、そういうものから、脱皮しないといけない。

悠：今度は、脱皮ですか？

神：今こそ、悠に伝えよう。

働くのも、結婚するのも、神に任せればいい。それが答えだ。

## 第6章

神：音楽の道で、成功するには？

悠：それは、聴いておきたいですね。

神：もう、そんな連中は腐るほど見てきた。

悠：僕も、そんな途方もない夢を見ながら、40歳の峠を越えてしまいました。

神：そもそも、成功と言っても、何をもって成功なのかい？

悠：あまり、考えたことがないですね。

神：成功とは、人それぞれだが、達成しないとイケない。

悠：また、達成ですか？ 神、用語の。

神：まず、悠の例で挙げれば、小説で成功をしないと、音楽の道で成功するのは、ないだろ  
う。

悠：なぜですか？

神：乗っ取りだよ。

悠：乗っ取り？

神：名前も知られていない悠が、小説で、有名になれば、音楽にも名前が使える。

悠：そうですね。

神：小説は、悠の中で、本当には、興味がないだろ？

悠：まあ、どちらかといえば、音楽のほうがいいような気はします。

神：才能、という言葉で言えば、まあ、神の力に頼ってはいるが、小説のほうが断然上だ。

悠：音楽には、まるっきり、才能はありません。まあ、一応、山のように作曲とかはしまし  
たが、歌も上手くないし、ステージに上がる度胸もないし、歌詞も覚えられないし、…もう、  
信じられないほど、音楽の道は遠く感じます。

神：諦めちゃえばいいじゃん。

悠：それこそ根っこですよ。根っこが邪魔をして、やれ、やれ、と言うんです。

神：そういう染みついた根っこを、どうやったら消せるかわかるか？

悠：わかりませんが、それなら、恋とか、結婚とかも、トラウマとは違う？

神：トラウマとは違うよ。まあ、恋、結婚も「～しなければならない」という、悪魔に、襲われている状態だ。音楽もしかり。しかし、この小説だけは、あくまで、金を稼ぐ為と、割り切っているな。

悠：そうです。

神：それが、健康だ。

悠：じゃあ、音楽も、結婚も、諦めるしかないのですか？ でも、無理ですよ、諦めるの。

神：まあ、慌てなさんな。

ここで、君にひとつ、大切なことを言っておくよ。

人を愛するという事は、この世で一番大切なことだが、神は、人を愛せない人のこともわかっている。つまり、勇者とは、悠のような男のことだと思う。つまり、戦いから、身を逸らすことができない人のことだ。

悠：でも、習い事も、仕事も、数えきれないほど、途中でやめてきましたよ。

神：そんなことはどうでもいい。

私が言いたいのは、善人のことではなくて、油蟬のように、戦い、死んでいく、そういう生き方をする人のことだ。

悠：で、音楽の成功については、どうなりました？

神：だから、簡単に言うただね。音楽で成功をしてもいいんだが、しなくてもいい。でも、根っこにしがみつくんだろう。取れないんだろう。じゃあ、どうすればいいか？ 挑んでいくしかないんだよ。そのための手段は、一緒に考えてあげよう。

悠：じゃあ、まずは、小説の成功という段階を踏まないと、何もできませんね？

神：そういうこと。

## 第7章

神：有言実行

神：やるからには、もう、とことんやったほうがいいが、努力なんてものはいらぬ。

大谷翔平のように、楽しむなんていうこともいらぬ。

じゃあ、どうすればいいか？

神に身を委ねていけば、それでいいだけ。

悠：じゃあ、悠はいいですけど、読者は、わけがわからない人もいますでしょう？

神：君は、まだ、そんなことを言っているのかい。

この本は、神しか読まない。

悠：それが、よくわからないのですが。

神：じゃあ、君は「神との対話」という本を読んだけど、あれを読めるのは、神を知っている悠だったからだろう。それ以外の人間は読まないんだよ。

神：人生は、甘くない。

悠：それは、痛いほどわかります。

神：悠は2つの間違いを犯した。

悠：それは？

神：神を信じたこと。そして、神を馬鹿にしたこと。

悠：…。

神：神は、霊界に悠を連れていこうとしたが、悠は、行けなかった。

悠：4度挑戦して、1回も行けなかった。

神：愛しのあの子ども、出てこなかったらどう？

悠：いませんでした。

神：なんだね？

悠：ただ、小説を書くしかない、ということだけは、はっきりしました。

神：ただ、かなりの蓋然性をもって、お金という意味では失敗するだろう。

悠：そうなんですか？

神：君にひとつ足りないことを教えておこう。

悠：はい。

神：執念だよ。

悠：執念？

神：なんでも、やり遂げる執念がないと駄目だ。

悠：じゃあ、今まで、神がやるから安心しろというのは、なんだったんですか？

神：それは、事実だ。

悠：でも、執念って言ったじゃないですか？

神：人は、もっと、貪欲じゃないといけないと思うのかい？

悠：いや、欲は少ないほうがいいと思います。

神：苦しむからね。

悠：はい。

神：でも、その苦しみと戦わないのも、逃げだとは思わないかい？

悠：そこは、あまり思いませんね。

神：でも、そうしないと、勝てないとしたら、すべてここまで話してきたことは、ひっくり返るよ。

悠：どうしたらいいんですか？



神：書きなさい。

悠：小説を？

神：そうだ。悠の道は、小説を書くことしかないんだ。

悠：ただ、あらゆる蓋然性をもってしても、失敗するんですよね？

神：そうだが、その生き方しかできない。

悠：女は？

神：まあ、手に入るだろうな。

悠：子供は？

神：生まれるだろうな。

悠：じゃあ、音楽は？

神：成功するだろうな。

悠：じゃあ、極め付けは、小説はどうだい？

神：成功するだろうな。

悠：じゃあ、いいじゃない。

神：コスモスの花を知ってるかい？

悠：花はあまり詳しくない。

神：悠は、現代っ子だから、疎いな。

悠：そうです。

神：じゃあ、ゲームはどうだ？

悠：好きですけど、最近はまったくやっていません。

神：まあ、あのイチローですら、野球ゲームの宣伝に出ていたからな。

悠：イチローも、ゲームするんですかね？

神：ともかく、時代は移り替わっても、なくなるものはない。それは愛だ。

悠：愛ですか。

神：神もなくなる。

悠：そうですね。

神：この世の終わり方は知っているかな？

悠：テポドンですか？

神：嫌、違うな、バック・トゥ・ザ・フューチャーだよ。

悠：聞いたことある名前。

神：つまり、連動性。つまり、神の死だ。

悠：つまり、悠の死ですか？

神：そういうこと。

悠：悠は神ですもんね？

神：だが、悠が死んでも、宇宙は続いていると思っているだろう。無意識に。

悠：だって、おじいちゃん、おばあちゃん、が、死んでも、悠達は生きているし、宇宙もありますからね。

神：それは、おじいちゃん、おばあちゃんは、神ではない証明だよ。

悠：つまり、悠以外の死は、神ではないってこと？

神：そうだ。

悠：じゃあ、今、話している、あなたは誰？

神：神だ。

悠：で、自分のほうの悠も、神でしょ？

神：そうだ。

悠：神は悠ですね。

神：じゃあ、なぜ、2人で会話してるか？

悠：神が2人いてはいけない根拠もないから。

神：そういうことだ。

悠：悠は神であって、神の一部ではないのですか？

神：神の一部でも、神でも同じだよ。

悠：でも、万物は神なんでしょう？

神：そこが、落とし穴だよ。

悠：どういうことですか？

神：万物は、そもそも、神の創造だ。

悠：わからなくなってきました。

神：わからなくていいんだよ。

悠：わかりたいですけどね。

神：ちょっとずつ、話していくから、今日は、この辺にしておこう。

悠：また、楽しみが増えました。

神：本当は興味ないんですよ。

悠：小説と、女と、音楽のほうしか興味がないのが本音です。

神：だから、どうでもいいんだよ。

悠：そうですね。

神：プロレスの本、あまり、売れなかったそうじゃないか？

悠：まあ、あれも成功をどこに置くかですよ。

神：20歳で作った、CDも、そんなに売れていないだろう。

悠：まあ、そんなところです。

神：そっちの2つは、まるで才能がないからな、悠は？

悠：おっしゃる通りです。

神：プロレスの本はもう書かないの？

悠：昔、みたいには、もう書けませんね。

神：じゃあ、邪魔物が1個なくなって良かったじゃないか？

悠：そうですよ。

神：それを踏まえた上で聴くが、小説ってなんだと思う？

悠：辞書で調べると、自分が自由に表現していいものだ、みたいな。

神：自由って、何かわかるかね？

悠：尾崎豊も「自由って、いったい何だい？」って、歌ってましたね？

神：自由、それは、束縛のない…  
そういうことではないんだ。  
つまり、自由とは、神だ。

悠：それは、わけがわかりませんね。

神：悠なら、本当はわかっているが、読者にわからせる為に、そういう風に答える。読者は気づいているから、もう、そんな風に答えなくていいんだよ。

悠：それは楽です。

神：答えは、結局、神なんだ。

神：まがいものたちの宴。  
そろそろ、核心に入ろう。  
悠、一番欲しいのは、女だろ。  
子供でもなく、小説でもなく、音楽でもなく、女だろ？

悠：間違いなく、そうです。

神：ようやく本性を現しやがったな。

悠：それも、綺麗で優しくて、できれば胸が大きくて、…

神：かわいいもか？

悠：それもです、はい。

神：でも、今までみたいに、見るだけじゃ駄目だな、手に入れないと、嫌なんだな。

悠：そうです。

神：それさえ、手に入れば、何もいらないうな？

悠：そうです。

神：じゃあ、そっちを中心に議論していこう。

悠：それは、楽しいですね。

神：女とは？

悠：女です。

神：やっぱり、わかってないよ。

悠：考えたこともない。

神：女神だよ。

悠：女神？

神：悠は、ステーキが好きだよな。

悠：はい、多分、一番くらいに食べ物では好きです。

神：女は食べ物だ。

悠：食べ物？

神：やはり、おいしい女が、一番おいしい。

悠：でも、いろいろな女性がいるでしょ？

神：おいしい女とは、直感だ。

悠：それは、なんとなくわかります。最初に好きになった子の残像が、忘れられないケースもありますし、この前のステージの大阪の女の子も、かわいかったなー。

神：でもね、そういうのって、幼稚だよ。

悠：幼稚ですか。

神：そう。悠には、悠に見合った女しか、神は与えない。

悠：与えてくれるだけでも嬉しいですけどね。断食はきつかったから。

神：そう。悠は神に、女の断食をさせていたんだ。

悠：恋人も、結婚も、子供も、すべて駄目と、言われましたね。通っていた、カラオケバーにも行くなと言われていたし。

神：そうだ。それを経験したことは大きい。

悠：で、僕に見合った女性って、どういう人ですか？

神：それは、シークレット・オブ・マイ・ハートだよ。

悠：倉木麻衣ですか？

神：まあ、倉木さんは、ないけど、秘密だね。

悠：そこを解き明かしてくださいよ。

神：今日、コンビニで、写真集をペラペラとめくっていたね。その時、なんで、この子、綺麗って思うんだろう？ と感じていただろう。哲学で美人は解決できるのか？

悠：それは興味ありますね？

神：簡単だよ。合わせだよ。

悠：合わせですか？

神：つまり、神だ。

悠：それなら、叫びますよ、神の名を！

神：たまには、悠の好きなプロレスの話をしよう。

悠：いいですね。

神：ブッチャー、ホーガン、ハンセン、猪木、馬場、シン、武藤、蝶野、…

悠：はい？

神：叫ぶ、神の名を！ と言いたいところだが、アイコンって意味わかる。

悠：本当は、象徴とかそういう意味では？  
神：そうだが、その人のポイントのことだ。  
悠：僕もアイコンポイントって、呼んでいました。  
神：アイコンが高い人間というのは、尊敬される。  
悠：ホーガンなんかは、メチャクチャ高いでしょ？ 特に、アメリカでは？  
神：プッシュされても、やはり、アイコンが低いと、ファンからは評価されない。  
悠：それは、わかります。  
神：それはね、女の子もそうだよ。  
悠：僕も仕事場で感じたことがあります。この人なんかいいなって。  
神：アイコンだよ。  
悠：綺麗でも、優しくても、アイコンがないと、そうか、つまり、魅力って言うのかな、その要素は必要ですよ。  
神：アイコン＝魅力だ。  
悠：じゃあ、いいじゃない。  
神：…  
悠：叫ぶ、神の名を！

## 第8章

そろそろ、バグダッドへ行こう

神：物書きにとって大事なことは、旅をすることだ  
悠：えっ、面倒臭いですよ。家に籠ってずっと考えていたい。  
神：それは、怠慢だ。  
悠：いや、自分が物書きなら、やってみせましょう。どこへでも行きますよ。  
神：いや、無理する必要はない。欲したらいけばいいだけだ。  
悠：もちろん、外に出かけたほうがネタは、山ほどできますけどね。  
神：まあ、今はいいよ。面倒臭いじゃん。  
悠：まあ、話は神が担当してくれるから大丈夫ですけどね。  
神：この前も、井の頭公園を散歩したばかりだろう。  
悠：カップルがいっぱいいました。  
神：悠は、デートをしたいか？  
悠：したいですね。だって、楽しいから。  
神：その日も近いよ。  
悠：そうだと嬉しいです。

神：悠は、西武ドームで、彼女と、野球観戦したいそうじゃないか？

悠：やり残したことです。まあ、更に、昔に行ったからいいんですけど、これも、引っかけりですよ。

神：あの頃は、もう2度と、戻っては来ないのか？

悠：それ、僕の歌の歌詞のパクリです。

神：神は、なんでも知っている。

悠：そもそも、なんで悠のことなんでも知っているんですか？

神：生まれた時から、ずっと見ているからね。

悠：じゃあ、なぜ、2022年1月から、正式に憑りついたのですか？

神：と言っても、悠が逮捕された日も、神と一緒にいたじゃない。

悠：でも、一番、具体的に出てきたのは、2022年1月からですよ。それからは、1日も欠かさずにいるわけですから。

神：まあ、いいじゃない。

悠：そうですね。

  

神：日光に行きたい。

悠：なぜ？

神：あそこの温泉に入りたいんだ。

悠：混浴だといいですよね。

神：際限なく、浮気心が目立つね。そういうのは良くない。

悠：だって、妻がいれば、愛する自信はありますけど、フリーですからね。自由ですよ。

神：妻を愛すると言うが、それが、どれほど大変かわかるか？

悠：神、頼みになります。

神：だって、神が悠に、見合った女性を連れてくるんだから、大丈夫だよ。

悠：それが、茨の道でも？

神：茨の道ではなく、それは、楽園だよ。真の意味でね。

悠：でも、茨の道を含むあらゆる困難の先にある、真の楽園って意味でしょ？

神：まあ、そうだとはおこう。

悠：悠は、浮気はするんですか？

神：浮気といっても、いろんな意味があるけど、違う女性に走る浮気はしない。

悠：見る、喋る、程度の浮気ですか？

神：そうだな。

悠：そもそも、俺を愛する女性なんているのかなー？

神：いるとも、自信を持ちなさい。

悠：でも、綺麗とか、かわいいとか、優しいとか、グラマーとか、…すべての要素を揃えた、あとアイコン、魅力的もね。

神：神が連れてこよう。

悠：その人と結びついたとして、その子がおばあさんになっても愛せますか？

神：そこはもう、何も心配いらぬ。

悠：じゃあ、いいじゃない。

神：なぜ、悠に鼻歌を歌わせるかわかるか？

悠：そういえば、悠に憑りついてから、ずっと鼻歌を歌うようになりました。

神：あれは、物事を軽く見れるんだよ。

例えば、皿を割っても、ストレスが低い。物を落としても気分が悪くなりにくい。掃除をしていても、退屈しない、など、あらゆる要素がある。

悠：そうですよね、それは感じます。

神：まあ、さっき、悠は、神に裏切られたと言って、歌うの抵抗していたけどね。

悠：ふふふ。

神：まあ、人間には、歌うという能力が与えられているから、これは積極的に使ったほうがいい。何かな？

悠：うがいなど、食事もか、口を使う時は歌えないじゃないですか？あれは？

神：ちょうちんだよ。

悠：ちょうちん？

神：つまり、口は物を食らう為だけに、努めるのだ。

神：結婚という檻。

結婚というものは、神は反対だと言ったね？

悠：はい。

神：それは、悠も少なからず、重い知ることになる。なんだね？

悠：結婚相手、カラオケバーのあの子ではないの？

神：違う、と言っておこう。あの子は、もう会うこともない。

悠：じゃあ、出会いなんてどこで生まれるのか？

神：君は、精神障害者のマッチングアプリに失敗したね？

悠：まあ、失敗しましたが、経験しただけでも参考にはなりましたよ。

神：やはり、人それぞれだが、神も、人間同士が裸で向き合って、できた関係じゃないと、なかなか上手くいかないとは感じる。マッチングアプリがどうだかは知らないが。

悠：そうですよね。

神：ところで、結婚と言っても、子供が先にできるケースもあれば、結婚したあとに、子供ができるケースもある。

悠：そうですね。

神：じゃあ、いいじゃない。

悠：待って、子供ができると、結婚は考えないといけない可能性はありますよね？

神：まあ、中絶もあるが、そこには触れないでおこう。

悠：結婚という制度がないと、あちこちに子供が産まれる危険性で、誰が世話するみたいな問題になりますよね？

神：でもね。それは、それで、いいと思うよ。結婚制度のほうが、狭めて愚かだとは感じる。まあ、男がだからといって、やたらめったら、交尾していいわけではないが、それなら、動物達はどうしているかい？野生のライオンたちは、それなりにやっているだろう。神は、人間も結婚をやめるように推奨したいが、悠という愚かな人間は、それでも結婚という十字架があっても、結婚しないとられないようだから、そうしなさい。なくていいなら、独身でも胸張ってる人間はいくらでもいるんだから。

悠：…

神：バレンタインデーのチョコは、カラオケバーの若葉からもらった、1つだけだったね？

悠：でも、嬉しかったですよ。

神：仕事場の人達からも、みんなへのという形だけど、2つほどももらったね？

悠：そうでした。

神：バレンタインデーとは何か？という討論はくだらないのではないが、元ロッテの、バレンタイン監督は、神か？神ではないか？

悠：神だ。

神：そうだ。

さっきから、悠しつこいね、なにになに、プロレスラーの飯伏幸太が、神になった一、と叫んだ。あの神はどういう意味か？

それはね、飯伏には、神の意味がわかっていないだけだ。飯伏＝神。だから、なった一、も、クソもないんだ。じゃあ、飯伏の崇拜する、中邑真輔や、棚橋弘至は、神かだって？辺り前だ、皆、神なのだから。

神：新幹線は、いつになったら、悠を乗せてくれるのか？

面白い問いだね。

悠：だって、旅にでも出なきゃ、新幹線乗りませんよ。飛行機も。

神：神は、あらゆる人物の世話をしているが、この問いが足りない。

乗り物にいつ乗る日が来るのか。

悠：僕も、仕事をやめるつもりですから、もうバスにも乗りませんし、電車にも乗っていません。

更に、深刻なことに、このまま小説ばかりを書くことになれば、図書館にも行かなくなるかもしれません。すると、また、半ひきこもりですよ。コンビニと弁当屋に行くくらいになってしまう。すると、外が怖くなるのかな？と、不安です。



神：結論から言おう。その場合、大丈夫だ。もう、自分に確固たる、自信がある場合、他人に左右されたりはしないんだよ。だから、小説が見つかって良かったね。

悠：そうなんですか？　じゃあ、筋トレは？

神：君もしつこいね。筋トレは、自信のない人間がやるものなんだよ。やることがある人間は、その道を貫けばいい。

悠：そういうことになると、だんだん、女もどうでもよくなりませんか？

神：結局、そうなるだろう。

悠：はっ？

神：だから、結局、そうなるんだって。

悠：じゃあ、美人、かわいい、優しい、グラマー、魅力的な女性は？

神：現れないよ。

悠：じゃあ、それも勝ちじゃないですか。

神：まあ、ただ、今はそうかもしれないが、また、一瞬に女を求める可能性もあるが、神ももち遊んだが、ようやく、悠も、そこに気づいたようだな。

悠：じゃあ、いいじゃない。

神：そうだよ。

悠：それは、金を稼がないとしても、に、繋がるの？

神：そうだとも。

悠：凄いな。凄いや。天職？

神：いや、神だ。

悠：ワイフつまり妻を持つことは、弱いのか？

神：弱い。

悠：じゃあ、聞かせてください。今後、道ですれ違う女性は見つめるの？

神：見つめるよ。

悠：それも、この前、実験した結果、自然体が見つめるほうでしたもんね。

神：そういうこと。

悠：小説のネタがなくなることは？

神：ない。

悠：なんで？

神：ないから、神だから。

悠：食事は？　睡眠は？　性欲は？　薬は？

神：まあ、現段階ではこう言ってあげる、今は、すべて、やりなさい。

悠：小説が書けるなら、早起きする動機になるかな？

神：大いになるよ。

悠：それは、小説が金にならないとしても？

神：それは、まったく関係ない。

悠：ホームレスになったら、小説書けないかもしれませんよ。あと、手を失ったら。

神：そういう馬鹿な心配はやめなさい。

悠：じゃあ、音楽も、もうしなくていいの？

神：それは、どうかな？

悠：どうして？

神：悠には、まだ、小説に確信がないんだよ。だから、妻にしてもね。どう転ぶかわからない。

悠：自信って、なんですか？

神：絶対の自信のことだね。

悠：それは、どうやって獲得できますか？

神：まあ、歩いていけば、見つかるよ。

神：そもそもね。

自信があるなら、小説なんか書かないよ。

悠：どうやって、お金稼ぐんですか？

神：君の場合、遺産もあるし、障害年金もあるから、それでいいじゃない。

悠：絶対の自信がないせいか、それやったのに失敗しましたよね？

神：だから、まだ、小説の浮き輪が必要だよ。

神：LINDBERG の歌を聴かせろ

悠：LINDBERG？

神：LINDBERG とは、日本のバンドだ。

悠：それを何故？

神：いいから、鳴らしてみろ。

悠：今すぐ Kiss Me。

神：もう、終わりだ。

神：悠よ。

叫ぶ、神の名を。

神：悠よ。

もう一度、考え直せ。

つまり、本当に小説でいいか？ 考え直せ。

悠：小説、しか、無理ですよ。

神：じゃあ、答えはどこにある？

悠：わからない。

神：答えは、何もしないことだ。

悠：だから、それで失敗してるじゃないですか？ 浮き輪が必要なんですよ。

神：でも、大人になったら、なるためには、浮き輪は外すだろ？

悠：そうですけど、暇になっちゃう。

神：暇でいいじゃない。

悠：耐えられない。何かしていないと。

神：これは、何かわかるか？

例えば、動物が本を読んでいたら奇妙だろう。

でも、人間が本を読んでいたら普通だ。

逆に、動物が何もしていなかったら普通だろう。

でも、人間が何もしていなかったら？

悠：？

神：普通だ。

悠：どうすればいい？ 俺は、それで失敗してるんですよ？

神：また、失敗すればいい。

神：もう、じゃあいいから、次の話に移ろう。

神：何もしないとは何か？

悠：何もしないこと。

神：そうだ。

神：何もしないとは、何を考えればいいのか？

悠：何も考えないこと。

神：そうだ。

神：醤油とは、なぜ、黒いのか？

悠：？

神：神の色だからだ。

悠：黒いのが神？

神：違う、神が醤油を黒くした。

神：小説とは何か？

悠：？

神：悠の天職... には、なれないものだ。

神：じゃあ、とどめを刺すぞ。

悠は、何をしたいか？

答えは1つ、何もしないことだ。

神：答えは1つ、何もしないことだ。

では、何もしないとどうなる？

悠：外が怖くなる。引きこもりになる。

神：違うな。

強くなるだ。

悠：そのカラクリが、わからないのですよ？

だいいち、今、なぜ、止められたのかもわからない。

神：頭のいい、君ならもうわかっているはずだ。

止めた理由は、まだ、話が終わってないからだ。

神：もう、何もしないをする必要が、悠にはない。

なぜか？ 悠は、耐えられるからだ。

悠：わかりませんよ。

神：いや、視線と同じ原理で、ある一定以上経過して、見込みがあれば、それ以上はする必要がない。

悠：なるほど。

神：確かに、悠が言うように、人間は稼がないといけない。

ただ、やみくもに、金だけを目指しても意味がない。

さすれば、やることはただ一つ。

小説を完成させることだ。

## 第9章

悠よ、もう迷うな、小説家になれ

神：悠は天職を掴んだ。

それは、小説家だ。

それを、もう大にして叫んでいい。

悠は、視線も勝った。

悠は、何もしないも勝った。

だから、迷わず行けよ、行けばわかるさ、だ

神：優柔不断な性格と決別せよ  
もう、小説は、だいぶ完成した  
でも、湯水のようにまだ出る

神：イチローにちなんで、名前を当てると、  
斎藤飛鳥にちなんで、名前を当てると、  
イチアスだ。

神：とうとう、もう、何も浮かばない。  
じゃあ、どうする？  
答えは、ラーズ・ヌートバーが、知っている。

神：コードネームを解読せよ

コアラ

ラクダ

退屈

机

煙突

積み木

鬼太郎

牛

鹿

カバ

爆撃

貴様

ままごと

トナカイ

田舎

カモメ

メロン

ンジャメナ

ナイロン

ンンコ

コアラ

よって、解説するのは、  
ラーズ・ヌートバーだけが、知っている。

神：地球の秘密

地球については、まだ、よくわかっていない  
でも、地球は丸いとしても、どうでもいいのだが、  
その先にあるのは、世界共通の悩み  
そう、温暖化現象ではなく、  
核実験ではなく、  
アリストテレスの文学ではなく、  
まして、中島義道の文学でもない、

神：中道をゆけ

焦っては駄目だ  
中道をゆけ

神：気を操るには

気というモノは、  
昨日の実験でもわかるように、  
手足に、物凄い気を感じる  
これが、膨張すると  
気の破裂が起こる  
それを踏まえた上で、  
悠を、昨日、  
霊界へ案内した  
そして、悠が  
行くことのできなかつた  
霊界は  
実は、霊界ではなく  
眠りの世界だった  
気は、どうして生まれるのかというと  
人間には、神のみなし　ご、がいる  
それを、あたかも、  
自分のパワーだと、

錯覚してしまうのだ  
要するに  
爆弾を破裂させた男のように  
無邪気に  
そして、  
天空の青空のように  
無敵な光景  
そんな日々を  
耕すのが  
気の正体である

無論  
例外もある  
それは、  
バグダッドの夜  
イラン人達が  
墓参りをしていた時  
猛烈に  
苦しい爆弾を  
受けた  
それを、  
霊界に持ち込んで  
知らん顔をしていたのは  
誰だろう、  
アメリカ人達である

戦争。  
それは、  
不特定多数の人間が  
人を殺し  
人を愛した  
結果であるが  
その名をなんというかわかるか？  
そう、叫ぶ、神の名をだ！

## 第10章

あなたに会えて、本当に良かった

神の本質に触れる前に

1つ、確かめておかなければいけないことがある

それは、もう、軽々しい

トーク形式なんてやらないよ

もう、ここからは、

文学の世界に入る

それでも、しないと

本当のことに辿り着かないからね

ジグゾーパズルの定義

さあ、憂鬱な顔をしていないで

これらの問いに答えてみなさい

1、世間とは、キツイ

2、世間とは、尊い

3、世間とは、儂い

4、世間とは、汚い

5、世間とは、希望

6、世間とは、優雅

7、世間とは、星

8、世間とは、神

もう、わかるね？

8番が、答えだ、

神：実情では、イーグル派の人間は

世界を打破するのだが、

イーグル派ではない人間は

無造作に、それを動かす

砂漠に塵が落ちていないように

まごわかな景色

そういうことを、

ここでは、天界と呼ぶ



クラス。  
少しの敵だった  
あいつらのことを  
夢の中でも味わって、  
追いかけて  
逃げられて  
砂漠に、ひとりきりでいる時に  
佐々木希のような天使が  
こういう  
あなたは、嫌われ者。  
でも、そんなことはわかっている。  
それよりも、なぜ、皆、  
俺から距離をとりたがるのか？  
まともに、顔も見ないのか？  
ヨソヨソしいのか？  
十分な答えはある  
モスクの神話だ

神：さあ、悠よ、悠平よ  
ここまでで、何か質問はあるかね？  
悠：ない。

サリンを撒いたのはいけないことだが  
あれにも訳がある  
あのサリンというものを  
オウム真理教が使う前に  
もう、砂漠の怪人たちは  
あらかじめ、知っていた  
そんな、奇妙な事実に  
我々は、足元をすくわれる

神：何か、言いたいのか？  
悠：この、手荒れ、アトピー性皮膚炎は、治らないのか？  
という素朴な疑問。  
神：それは、健康を維持すれば、治る  
悠：病気というものは、

神：いや、病気なんてそもそもない、  
イカサマだよ

悠：かっこのようだ

神：そう、かっこのだ

神：文学に慣れる為には  
少々、きつくても  
この言葉を、聴くしかない

悠：慣れですね

神：そうだ

だから、退屈でも、しばらく聴いてなさい

神：文化とは  
ささいなことから喧嘩は始まった  
でも、それは悪いことではない  
もし、イカサマな挑発ならば  
色彩は色とりどりに  
なくなっていたはずだ

悠：言わんとすることはわかります

神：それでいい

神：ただ、過ちもあるんだ

悠：为什么呢？

神：神を冒瀆した

悠：ユッケルの原理ですね

神：ユッケルのことではない

悠：蕪村だ

神：与謝野蕪村

悠：彼は、何者ですか？

神：紙芝居だよ

悠：要は、発明家ですね？

神：加えて言うなら、優しさだ

悠：ゲートルの格式ですか？

神：だいぶ理解したようだな

悠：菩提にお祈りをしよう

神：ミッチェルにも相談しておこう

悠：ならば、ナーバスにならないように、少し外に出てきます

神：瞬間の定理だ

悠：俺、今、ここにいます

神：しかし、さっき、コーヒーを買いに行った

悠：その俺は、間違いなく外を歩いていた

神：でも、また、ここにいる

悠：じゃあ、いいじゃない

神：そして、缶コーヒーは、ここに置かれている

悠：つまり、瞬間の定理とは、  
ここに在ることをおいて、他にはない

神：神よ、アーメン

## 第 11 章

神：アレクチェンジの題材

神：勇者とは、立ち向かえることだ

悠：しかし、理屈抜きに、それは儂い

神：悠だけではない

悠：ガリバーも同じだ

神：神殿にも神は祭られている

悠：もう歳なのに

神：カブトムシが鳴くよ

悠：ああ、こんな俺に育てやがってって、

神：ブライ族の仲間だ

悠：夕暮れにしなだれて

神：和解を願った

悠：今日もまた、どこへ行く

神：愛を探しにゆこう

悠：いつの日か輝くだろう

神：今宵の月のように

悠：エレカシだ

## 第12章

神：クッパとは何か？

悠：マリオブラザーズのボスですか？

神：そうだが、

悠：でも、本来は食べ物でしょう？

神：それでも、クッパは、元々は、大魔王ではなかった

悠：ヨッシーなら

神：かわいいからいいな

悠：女の気を頂戴しろ

神：まがいなりにも

悠：勇者は、ここだ

神：それ見たことか

悠：経験が違う

神：メウスよ

悠：劇団かい

神：そう我々は劇団

悠：そういう表現もあるな

神：言霊を探して

悠：ジャックナイフだ

神：それなら、ラルクの「Pieces」だ

悠：行き違えることもあったさ

神：神々の国ではな

悠：もうじき、俺にも来る、さすらいの時がな

神：ああ、我が子よ、息子よ

悠：俺は世間には向いていないんだ

神：テレビを見るのが怖いくらい

悠：うんざりする

神：鬼才ならいいじゃない

悠：だって、WBC 優勝しても…

神：感動しない

悠：自分のことじゃないしね

神：日本のことだ

悠：話を合わせることはないよ

神：もう下界に降りた

悠；くしくもあの人が言っていたよ、歳取ると、感動しないって

神：そうだな

悠：でも、俺は、あいつが憎いんだ

神：シカトするからか？

悠：まあ、いいんだけどね

神：じゃあ、いいじゃない

悠：あばよ、天ちゃん！

## 第13章

ゼロ

ああ、泣かないで

ああ、死なないで

ああ、悔やまないで

ああ、叫ばないで

エロス

メロス

プリン体

ギューギュー詰め

キャロット

運動

撲滅

春化

下民

撲滅

神：そろそろ、新たなステージへ行こう

悠：それがいい

神：ワープだ

悠：ワープ？

神：悠をいざなう

悠：さすれば、からかう

神：仏の道も、一歩から

悠：九官鳥が鳴くのなら

神：何、小説を書きたい？

悠：だって、何が？

神：これが、小説というものの醍醐味だ

悠：これでいいんだね



神：神から神へソースすると言ったね？

悠：そう

神：だからいいんだ

悠：じゃあ、いいじゃない

神：そういうこと

神：マラソンは好きかい？

悠：あまり好きではない

神：ゴールのないマラソンはできるかい？

悠：それは、生きることですね？

神：そうだ

悠：悠は死なない

神：神だから

悠：6時に鐘が鳴っている

神：これも出会いだ

悠：なんて美しい手をしているんだ

神：わからないのか？

悠：進むべき道が

神：沢庵和尚のように生きろ

悠：じゃあ、小説を、畳むのか？

神：それは、もう、できない

悠：じゃあ、どの仏門にはいればいい

神：あの人のことを思い出しているな？

悠：ええ、インスピレーションで

神：ここは、もう、神聖な世界だぞ

悠：ええ、わかってます

神：今、気が俺の手を...

悠：髭を剃りなさい、手遅れになる前に

神：それなら、神が導いてやろう

悠：じゃあ、もう、ヨロシク

## 14 章

母の愛より

俺の、人間は、おいくらですか？

辿り着きたい、自分に

神：悠、まだ、ソースの原理を理解してないな

悠：最初から、すべて説明してくださいよ

ちゃんと俺にわかるように

教えてくれ

神：それは、言えないな

悠：なぜだ？

神：じゃあ、例えば、悠が、意味不明な言葉を読んだとしよう  
そこを読み取れるのがソースだとしたら  
それなら、いいじゃない  
俗な言い方をすれば、  
一般庶民は、こんな小説は読まない  
どこと戦っているかという  
ソースと戦っているんだ  
だから、大枚をはたいてでも買うものは  
いるんだよ

神：じゃあ、もっとカラクリを教えてやる  
買う人間はいない  
ただ、インスピレーションだけを与えるだけで  
悠は、大金を手に入れるし  
それが、また、不思議なもので  
なくなる  
じゃあ、いかに生きるか  
小説家の道を選択したんだ

神：それだけのことだ

神：お金はどのように現れる？  
女を貢ぐ金はどこにある？

神：だって、そんなものはいないから

神：悠の銀行口座には、毎月、一定のお金が入るし  
悠は結婚なんかしないから

神：恋人とのデート？ デート代？  
俺は、人と女と、話さないのか？

神：民、悠よ。  
まだ、そんな地点にいるのか？  
もう、小説の道に歩きだしたんだ

神：名声？  
そんなものは求めていないだろう

神：答え？  
生きることだ

神：小説を書くとは何か？  
初めていい質問だ。

神：悠が小説を書くにあたって、  
1つの事実を言えば  
足を組むのが、早い

神：悠は、小説という名の元に生きなければいけない

神：音楽？

神：もう、いいじゃない。

神：これ、カウンセリングですか？

神：それでもいいよ。

神：1つだけ、確認しておこう。

神：悠、逃げ出せないぞ。

神：光の法則？ 枯渇する前に？

神：それなら、何度でも休めばいい。

神：今こそ、悠に伝えよう。

神：もう、小説を書くしか道はないぞ。

## 15 章

ビートルズ、がやってきた、ヤー、ヤー、ヤー

神：悠、長瀬剛の筋肉が好きじゃないそうだな？

悠：はい。

神：なぜだ？

悠：嘘臭いからです。

神：でも、あれは、長瀬の本当の力だとしたらどうする？

悠：それは、諦めます。

神：そうかもしれないよな。

神：T.M.Revolution、の筋肉はどうだ？

悠：やはり、好きではない。

神：このように、男は筋肉に憧れる。

神：お笑い芸人、野田クリスタルの筋肉は？

悠：いや、駄目です。

神：なぜか？

悠：だって、美しくないじゃないですか？

神：君は GACKT のような、筋肉に憧れているだろう？

悠：はい、そんなところです。

神：じゃあ、なぜ、人間は、筋トレをするのか？

悠：わかりません。

神：君も筋トレを否定しつつ、昨日、体が鈍って、筋トレをしていたね？

悠：はい。

神：筋肉とは、細胞の格差だ。

悠：つまり、エンジニアですね？

神：木鶏、そんなところに、筋肉はいらない。

悠：じゃあ、せめて、体が鈍ったら、これから、どうすればいい？

神：休みなさい。

悠：筋トレではなく、休む？

神：そうだ。

悠：目から鱗ですね。

神：いや、君はすぐにはできないと思う。

悠：筋トレしてしまいますかね？

神：まあ、そこが、悠の次の課題だな。

悠：弱くならないんですか？

神：弱くはなるが、強くもなるじゃないか。

悠：じゃあ、散歩は？

神：それも、意図的にする必要はない。

悠：死について、考えました。

神：死は、肉体から、魂への、移行だ。

悠：ますます、スポーツに、興味がなくなりました。

神：ミュージシャンもかね？

悠：なんか、いろいろ。

神：脚色されているからね。

悠：読書は、どうなのですか？

神：あれは、特に、小説というものは、どうだろうな。

悠：じゃあ、やはり、何もしないことが一番強いのではないですか？

神：そういうことだよ。

悠：でも、働かないといけない。でも、口座にはお金は入る。何もしない生活もできると、認められた。そして、小説を書かないといけない。そして、最後に死ぬ。こんなところですか？

神：正解だよ。

## 16 章

### エロティカセブン

神：だいたい、悠も、なんだかんだ言って、エロイよな。

悠：そうですね。

神：それは、なぜかわかるか？

悠：動物だから？

神：そうだが、それだけじゃない。

悠：なんでしょう？

神：神は、エロイんだ。

悠：神がエロイ？

神：神とは、エロイことが好きなんだ。

悠：じゃあ、いいじゃない。

神：そういうこと。

神：この前の、雑誌、捨てちゃったね？

悠：神が強制的に捨てたんですよ。

神：でも、部屋の中にエロ本があると、邪魔じゃない。

悠：そうですね。

神：じゃあ、いいじゃない。

神：スカートって、素敵。

悠：女子高生のスカートって最高。

神：じゃあ、いいじゃない。

神：ボインな女の子って最高。

悠：グラマラスなら、尚、最高。

神：それなら、そういう女を紹介しようか？

悠：動画で見るからいいよ。

神：でも、生で見たら、最高でしょ？

悠：それは、当然だけど、

神：じゃあ、海にでも行く？

悠：海、つまらないよな。

神：おっばい、は、

悠：おっばい、は、



神：おっばい。

悠：じゃあ、フーミンだな。

神：女陰。つまり、おまんこ、を、想像してごらん。

悠：慣れました。

神：あの、穴には、クリトリスを支えているよな。

悠：それだけじゃない。

神：でも、男は、アナルも好きだ

悠：潮吹きも好きでしょ。

神：じゃあ、どうしたい？

悠：抱きしめたい。

神：キスもしたい。

悠：尻を叩きたい。

神：ワキを舐めたい。

悠：首筋も舐めたい。

神：足の裏の臭いも嗅いで、舐めたい。

悠：ケツの穴を舐めたい。

神：イカセタイ。

悠：イキタイ。

神：それが、男のセックスという形。

神：ブリスベンで、女を見た。

悠：素敵な街の女の子。

神：沙羅双樹の鐘の音

悠：ことわりをあらわす。

神：ジョーカーは、誰だ。

悠：若葉も、夢乃も、洋子も、みさえも、ネネも、

神：皆、実は女だよ。

悠：でも、セックスはできない。

神：それなら、こう言えばいい。

悠：俺は、セックスしたくないんだよな。

神：すると、女はこう言う。

「私と、エッチする？」

悠：まさか？

神：でも、そんなもんだよ。

悠：言う度胸はあるけど、向こうも本気じゃないでしょ？

神：まあ、本気ではないんだな。

悠：じゃあ、駄目じゃない。

神：抑えきれない、この気持ち。

悠：憂愁のことわりをあらわす。

神：例え、銀河に倒れても、

悠：刀があればいいじゃない。

神：神よ、神よ、と、叫ばずに、

悠：己の道を進むべき。

神：シュガー佐藤は、甘いかな？

悠：永島辺りが丁度いい。

## 17 章

### ボクシングという磨法

神：プロボクシングも、際どいものだね。

悠：俺、精神障害者だから、ボクシングはしたらいけないらしい。

神：差別か？

悠：しょうがないよ。

神：まあ、そのおかげで、きつい練習はしなくていいからね。

悠：人、殴っても、しょうがないでしょ。

神：なんだね？

悠：俺、広い世界に行かないで、自分の殻に閉じこもっていたい。

神：なら、そのほうがいい。

悠：小説書いても、答えが見つからない。

神：それは、今は、眠いからだよ。

悠：お腹も空いてしまった。

神：ひと眠りしたね？

悠：ひとみ、のことを思い出してしまう。

究極は、小説が、面白くない。

神：それは、世に小説を出さないからだろう。

悠：そうです。

神：でも、固有の生き方を構築しないといけないから、悠は小説を書き続けなければいけな

い。その意味はそのうちわかるよ。

悠：図書館に行っちゃいけないんですか？

サッカーや、メジャーリーグや、野球、見ちゃいけないんですか？ プロレスだって、チェックしたいし、音楽も聴きたい。

神：それは、かまわないさ。

でもね、そんなことより大事なのは、小説を書くことなんだよ。

悠：じゃあ、録画なり中継を、つけた状態で、小説を書くのはいいんですか？

神：まあ、それくらいはいいが、本来なら、そんなものは見ないほうがいい。

悠：スターダム見たいですよ。

神：そこを我慢することが大事だ。録画して溜めておきなさい。

悠：改めて、小説って、なんですか？

神：自己表現の場だよ。

悠：健康にいいんですか？

神：とてもいいね。

悠：アトピー達は、治るんですか？

神：神は治ると思っている。

悠：もう意味があるものしか、書きたくありません。

神：それならそうしよう。

神：悠に1つ、大切なことを言っておこう。

悠：なんでしょう？

神：もう、悠は、小説を書き終えた人だよ。

悠：どういう意味ですか？

神：悠にとって小説とは、悩みを吐き出す場なんだが、それ以上に、もっと深い知識を知っておかなければいけない。

悠：わかりません。

神：神がなぜ、とても、意味のわからないようなことを書かせたと思う。

悠：さあ？

神：神にしかできない小説を、作ってもらう為さ。

悠：神にしかできない？

神：そう。それは、アンチエージング。

悠：さっぱり、わからない。

神：悠は迷路にいる。

悠：そうです、彷徨ってます。

神：その位置を、正そうじゃないか。

悠：はい。

神：しばらく神の書くままに任せてごらん。

悠：はい。

神：よし、はじめよう。

神：ドクターX。

悠：なに？

神：しからば、いかないのだろうか？

悠：おっちょこちょいが。

神：ようこそ、パラダイスへ。

悠：せめて、僕に言ってよ。

神：とんみー、を、連れていこうか？

悠：とんみー、は、右の鼻をケガしたんだよ。

神：ノリがついちゃったね。

悠：いいじゃ ーん、生きてるんだから。

神：さあ、駆けだしていこう、帳まで。

悠：夕焼けへ、走ろう、レッツゴー！

神：ミサンガを、つけていたよね。

悠：そう、サッカー選手みたいに。

神：ポテトチップス、コンビニに捨ててきたでしょ？ あれが問題に。

悠：もう、悠のせいにしないでよ！ もう、悠のせいにしないでよ！

神：ご両親は、わかってたね。

悠：なつき、を見てたんだ。

神：悠が、ずっと見てくるんだけど... と言っていたね。

悠：あの警察達との睨み合いでも、1回とちって目瞑ったけど、楽勝だった。

神：銀座の占い師。

悠：女だったね。

神：あいつの目は本物だった。

悠：外さなかったね。

神：居酒屋で、酒だけ頼んで、飲んで出たよね。

悠：大将が何者かという目で、こっちを見ていた。

神：ボロボロのオレンジ色のセーター。

悠：俺、男と外国人の群れを、追いかけてまわしたよ。

神：最後に、「負けました」と言って、去ったね。

悠：あれが、銀座のやり方だよ。

神：行徳の悠は、危ない奴だった。  
悠：まあ、いろいろあったね、数えきれない。  
神：シェリー犬だけが、悠の命だった。  
悠：シェリー犬は、それはもう...  
神：シェリー！ ウォー、シェリー、シェリー、聴こえるかい？  
悠：この小さな音が、君をまぎらわす。  
神：燃えて、燃えて、燃える、花になれ、  
悠：ゆう ちゃん、のケーキ。  
神：なぜ、あそこで、パンツさわらせてきたのか？  
悠：ベッドで、ズボン脱いたら、逃げて行って、玄関で、ベーって。  
神：生きることが、人生の答えなら、もう、何も探さなくていい。ウォウ、ウォウ、ウォウ。  
悠：俺、神の言うこと信じますよ。

## 18 章

### 油蟬が鳴く頃

神：いかんせん、甘い。  
悠：なにが？  
神：かたつむり、にでもなったつもりか？  
悠：俺、わかったんだ。この、会話の拍子が、小説なんじゃないかって。  
神：そういうこと。  
悠：皆、音楽が好きなんだ。  
    じゃあ、成功するってこと？  
神：すぐに、そうなる。そんなに人生甘くないよ。でもいい勘してるよ。  
悠：シオンを抱いて...  
神：ギターが泣いているよ。  
悠：俺は、才能の無駄遣い。  
神：それを、授けたのは、神だ。  
悠：じゃあ、悠って、なんなの？  
神：油蟬だよ。  
悠：神じゃないの？  
神：神だよ。  
悠：じゃあ、いいじゃない。

神：近頃じゃ、おばあさんが、脳梗塞で、倒れたそうじゃないか？

悠：まあ、しょうがないよ。

神：どうしてあげる？

悠：何もできない。

神：邪魔なだけ？

悠：そう。

神：そっとしておこう。

悠：そうだね。

神：何か、生きがいを見つけたのかね？

悠：俺、小説、書きたいんだ。

神：今、書いてるじゃないか？

悠：寝る間も惜しんで書きたいんだ。

神：でも、どこかで枯渇するのがオチだよ。

悠：わかってるさ。

神：だから、元気なうちに書きたいよね。

悠：俺、旅に行かなくて平気か？ 女をもっと見つめなくて平気か？

神：神に従うんだろ？

悠：そうさ、明日から、神がキャプテン・シップ！

神：今日からだな。

悠：ずっと前からだよ。

宮沢賢治も、こういうリズムで書いていたのか？

神：彼の文も、カタコト、カタコトとか、リズム性だよ。

悠：姉に進められたけど、そんな感じだった。

神：上祐容疑者って、誰かい？

悠：神だろ。

神：じゃあ、いいじゃない。

神：麻原彰晃って、松本智津夫だろ。

悠：日本のテロリストらしい。

神：でもね、彼も神なの。

悠：じゃあ、いいじゃない。

神：スマホって、便利だね。

悠：新井監督はガラケーらしい。

神：彼も神だよ。

悠：じゃあ、いいじゃない。

神：どうすればいいかって？

悠：心の持ち方、保ち方。

神：何も考えなくていいよ。

悠：でも、じゃあ、例えば、マクドナルドにツッコんで、いきなり注文できるかい？

神：今度やってみな、神がやってやるよ。

悠：じゃあ、いいじゃない。待て。

診察で、いきなり話しても大丈夫かい？

神：作戦くらいは、準備しておこう。

悠：そうか。

神：いや、なくても平気だけど、一応、心構えとして、ビックリしちゃうじゃん。

悠：まあ、任せます。

神：エリツイン大統領は、神か？

悠：神だ。

神：じゃあ、いいじゃない。

神：ニコライ・ボルコフは、神か？

悠：神だ。

神：じゃあ、いいじゃない。

神：シェリー、俺は、転がり続けて、こんなとこに辿り着いた。

悠：シェリーが、今、幸せなら、それでいいよ。

神：シェリーのT-シャツ、着ちゃって、ごめんね。

## 19章

蝉が泣く、ちくしょうとー。

神：悠がまだ、よちよち歩きの頃。

蝉が泣く、ちくしょうとー！

悠：ブラッドリーは、どうした？

神：コトーとだっけ？

悠：グラッデンのコンビは？

神：もう忘れたよ。

悠：俺、自分のこと、書きたいんだ、見つめたいんだ。

神：じゃあ、何かあるのかい？

悠：面倒なんだ。

神：そんなことよりも、退屈だろ？

悠：5年生に愛された。

神：愛という名の元に、俺は生きたい。

悠：死ぬために生まれてきたような…暮らしの中で、

神：ごめんよ、こんな、馬鹿げたこと、聞かずにいてくれ。

悠：愛してる。

神：名声なんていらないんだ。

悠：俺は、どうすればいい？

神：生きる上で、どうすればいい？

悠：神と悠は、一体です。

神：先程挙げた人物達とも一体です。



悠：小説は美しいほうがいい。だから、あいつらだけは書かないんだ。

神：ごまかしだね。

悠：全部、書いちゃう、俺の過去、洗いざらい？

神：いや、適当でいいよ、骨が折れる。

悠：そうだね。

ところで、女と話したいんだよ。

神：弁当屋の、あの人でいいだろう。

悠：そういう会話じゃなくて、愛のある深い会話。

神：そんなもん。

悠：でも、神に従います、だって正解だから。

神：甲子園は見なくていいのかい？

悠：ふん、あんなもん。

神：レスポンシビリティーだよ。

悠：レスポンシビリティーだよ。

神：トリプルHが言ってたな。

悠：プロレス？ ふん、そんなもん。

神：じゃあ、小説に懸けられるのかい？

悠：懸けてみせましょう。

神：生きがいはなんだ？

悠：弁当屋のあの女性。

神：やっぱり、女じゃないか？

悠：タイプじゃないけど、狭い世界にいと、それが美しく見える。

神：精神病院いる時も、キューピットが現れたとたん、男達の態度が変わったな。

悠：そうだ。

神：蟬が泣く、ち きしょうと。

    蟬が泣く、ち きしょうと。

    蟬が泣く、う、ち きしょうとうおうおう。

## 20 章

我が人生に悔いはなし

神：いよいよ最終回だな

悠：えっ、そうなの？

神：まあ、そう驚くな。これで終わりのわけがないだろ。

悠：神でも、間違えるんですね。

神：そうだ、これが会話だ。

悠：理論立てて喋るんじゃないくて、いわば自然体で反射する。それが会話だ。

神：キューリー夫人も、

悠：何の人？

神：スマホは駄目だよ。辞書も駄目。

悠：そっちのほうがいい。もう自分の言葉だけで喋りたいんだ。

神：そうだろ。

悠：じゃあ、本当に、それでいいのかい？

神：いいとも。

悠：ラーズ・ヌートバーの残骸が、頭をよぎる。

神：今度は、大谷の笑顔かい。

悠：気の病に侵された、夢遊病者のように...

神：何？

悠：俺、ヘラクレスになるよ。

神：ヘラクレス、ヘラクレス、愛のままに。

悠：朝赤龍は死んだが、豊昇龍は残ったな。

神：いったい、どれが本物なんだ。

悠：寺尾はいったい？

神：逆鋒は、

悠：コーヒーもこれで2本いるな、コールドでいい。

神：朝、夜だな。

悠：で、欲ってなんですか？

神：欲は、

悠：もうわからないよ。

神：セサミストリートでも、聴こう。

悠：カップラーメンも、多めに買っておこう。

神：気のあるうちが、花だからな。

悠：夕飯の支度が、

神：たまらなく嫌だったけど、明日が待ち遠しくて～

悠：嫌になったから～ああ

神：死にたかったからああ

悠：家族という船に乗り、  
孤独という海に出た

神：ぼんやりしている。

悠：もう、戦いも引退してしまった。

神：パソコン壊れたらどうしよう？

悠：大丈夫、巨万の富があるから。

神：礼儀、礼儀、って言うけどさ、

悠：ちょっと待って、俺、喋らないよ、今日、弁当屋で。

神：それはいいけど、弁当くらいは選べよ。

悠：なんでもいいんだ。だいたいなんでもいい。

神：口は物を食らう為だけに、努めるのだ。

悠：とかいって、スマホや辞書、使ってるじゃん、逆鉾の鉾わからねえから、確信がないから。

神：俺、真の意味で、かっこよくなりたいんだ。

悠：記憶の迷路を辿っていく。

神：するとね、必ず、誰かが、出迎えてくれる。

悠：長渕剛なのか？ 長渕剛なのか？ とかね。

神：ごうと、つよし、ね。

悠：百田さん辺りも、びやく たさん なのか、ももたさんなのか、わからないよ。

神、とんち、だね。

悠：テレビというオーバーな物に、振り回されないほうがいい。

神：すると、孤独な一匹の魚だね。

悠：歌はもう作らないのかい？ 作れないのかい？

神：もう作らなくていいよ。

悠：それ、マジで言ってんのか？

神：全部、空白は、小説に当てろ。

悠：また、出版社がどうとかか？ そんなのいいよ。

神：巨万の富があるからね。

悠：狭い世界って、逆に楽しいんだよ。

神：広ければ広いほど、苦勞する。

悠：中田英寿も、選択肢が多すぎて苦勞したろうな。

神：昔は、バットとボールしかなかったから、楽だったんだよ。

悠：アフリカなんかも、決めてくれるしね。上が。

神：じゃあ、狭い世界で生きよう。

悠：じゃあ、テレビも蹴るか。

神：それくらいがいい。

悠：口はただただ物を食らう為に、努めるのだ。

神：あはは一ん。

悠：ピーコックの店長。

神：ミケちゃん、かわいいよね。あの子と結婚できたら、間違いなく幸せだった。

悠：気の病に侵された、夢遊病者のように...

神：モスクワにでも行くか？

悠：旅か勘弁。

神：俺さ、病院の診察と薬がなくなれば、本当に自由人に近いよ。

悠：そこだけは、諦めるしかないよ、今は。

神：この前の先生、どんどん薬減らしたけど、愛想がね、ちょっと。

悠：でも、神がいなすからいいじゃん。

神：もはや、神対悠の会話じゃなくて、神対神の対話になってる。

悠：で、この本の題名は？

神：幸せの青い鳥だ。

悠：あっさり決めちゃって。

神：若葉に、謝りたい。

悠：もういいじゃない。

神：ラモス瑠偉のような、人間。

悠：キング・ハクだろ。

神：幸せの青い鳥。

悠：小説を書かないのが幸せなのか？ 何もしないのが幸せなのか？ 答えをくれ。

神：俺ね、かっこつけて、喫茶店でパソコンなんか打たない。

悠：まあ、面倒なだけだけどね。

神：セッティングもわからないんでしょ？

悠：まあ、そんなところだ。

神：昨日は2回もヌイタな。

悠：狭いほう、狭いほう、に、行きたくなってる。

神：一文無しになったら、必要に応じて働くか、ホームレスになるか？

悠：その答えも、出そうだよ、いつか。その前にね。

神：意外と、近々かもしれない。

悠：テレビを見ることは、裏切りである。

神：じゃあ、今日のコロンビア戦も見ないでいられるか？

悠：枯渴、気との戦いだ。どうなるかわからないから、赦してしまうかもしれない。

神：許さない。

悠：何ページまで書いたら、完成なのか？ ないのか？

神：とりあえずは、160ページだな。

悠：どんどん決めるね？

神：神だからな。

悠：小野伸二。

神：彼は、何が凄い選手だったの？

悠：わからない。

神：叫ぶ、神の名を。

悠：貯蔵庫も、空になるけど、そのほうがいい、エグレ、エグルンダ。

神：カタカナも、宮沢賢治風。

悠：取り入れていこうか？

神：無性に女とヤリタイ衝動に駆られている。



悠：あいだ ゆあ、のような女性がいいな。

神：そりゃ、オナニーよりも、セックスがいいよ。でも、神、認めないから。

悠：ソープランドも認めない。

神：読者は、こいつに、自由意志はないのか？ と思っているよ。

悠：読者なんて、いないじゃん。

神：早く、160ページまで走ろう。

悠：疲れないんだ、人間って好きなことやってると疲れないんだ。

神：だから、瀬戸内寂聴辺りは、99歳まで生きたのだから。

悠：食べ物も美味しい物食ったほうがいい。

神：でも、安いほうがいいし、簡単なほうがいいよ。

悠：俺、もう料理は作らねえ、弁当だ。小説を書く時間が削られるからな。

神：あの通路、桜の下を通り、わずかながらの女を見て、わけーのがいたら、ビンゴだけど、そう上手くはいかない。そういう小さな感動に献杯。

悠：献杯。

神：ブラッドリーったら、ニャーオ。

悠：ブラッドリーったら、ニャゴ隊。

神：なかやま きんに君の、筋肉って、ニセモノでしょ？

悠：正直ね。武藤辺りの筋肉はいいんだけど、棚橋辺りの筋肉はニセモノっぽい。

神：武藤は、ナチュラル・ボーン・マスターだからね。

悠：あの人、すべてが自然だよ。

神：棚橋はちょっと嘘臭いな。

悠：オカダも、内藤も、嘘臭いな。

神：意外と、老人の戯言でもないと思うよ。

悠：芸能人格付けランキング、ああいうのは、俺、あまり見る目ないけどね、そこそこだよ。GACKTには、及ばない。

神：UNO とかもね。勝負事、めっぽう弱い。あれはね、強い人は強い。弱い人は、とことん、弱い。

悠：俺、人生勝ったかもな。神のおかげだ。

神：狭い世界というのがキーワードになってる。

悠：ひとみが言っていたのとは、真逆だね。広い世界より、狭い世界に行ったほうがいい。

神：じゃあ、引きこもりと、ビル・ゴールドバーグは、推奨されるのか？

悠：一概にそう言えるよ。

神：じゃあ、ゴールドバーグはともかく、引きこもりに神が宿れば、救済できるのか？

悠：なんか、それも寓問だな。神は、全員を助けるし、悠が神だからね。

神：まあ、いいや。

悠：スティングはどうだ？

神：ダービー・アリンと仲良くやってるだろう。

悠：バンピーロは殿堂入りしないのかい？

神：今頃、ムタに、ヤキモチ焼いてるかもな。

悠：シラク大統領はどうかね？

神：俺、わかったんだ。記憶を辿らせているんだろ？ 昔、神が、昔を思い出すのは大切だ、と言った意味がわかってきた。

悠：それにしても、いいタイミングで、医者の方が変わったな。

神：でも、どっちみち、俺は貫いたと思うよ、仕事場行かないこと。

悠：小説家目指してますって言うの？

神：言わない、言わない。

悠：松坂のように、自信が確信に変わるまでは、書き続けるしかないんだ。

神：もう、前みたいに、自分の文には自信がありますか、どうか、すら、わからないよ。でも、鼻の下がかゆくて、痛くて、集中できない。

悠：薬塗ったのにね。

神：弁当屋のあの人も名前をつけよう何がいい？

悠：伊達さんにしよう。

神：伊達さん、好みのタイプじゃないけど、

悠：まあ、狭い世界だからね。

神：今日は、本当にそれがカギを握っているね。

悠：それにしても、疲れないな。

神：欲の塊だよ、この部屋。

悠：度胸ないけど、全部、欲物を外したい。ただ、パソコンだけは駄目ね。

神：昔なんて手書きだからね。

悠：少なからず、俺も、その時代を知っているから。

神：エネルギー枯渇との戦いだけが、カギを握る。

悠：俺、こんなペースで書いてたら、本屋置ききれないだろう。

神：まだ、金にしようとしてるのか？

悠：…

神：スティング、ブッカーT、ゴールドバーグ、シッド・ビシャス、ケビン・ナッシュ、DDP、全部俺が破壊してきた！ スコット・スタイナー破壊者リスト、ウオウ、ウオウ、ウオウ！

悠：わけは知らないけれど、君はそこで泣いてた、うつむいて零してた、君のあの涙。

神：かける言葉さえ、見つからないまま、泣きやむまではずっと、立ち止まって。

悠：ハンサム。

神：アンセム。

悠：戦いを終えた選手達が、ピッチに舞い降りていきます。

神：あの女性、看護婦、体洗いましょうか？ と言ってくれた時、なぜ、俺は「いいです！」と断ったのだろう。

悠：勇二、あの時の空を忘れちゃいけないか。

神：勇二、あの時のエネルギーギッシュなお前が欲しい。

悠：シラクさん、勘弁してくださいよ。

神：俺って、鬼才？

悠：吉田正尚という選手は、天才だね。

神：だって、「愛と視線」シリーズの時だって、こういうスタイルだったじゃん。でも、出版社の審査では落ちたんだよ。まあ、一作くらいで引き下がる、俺が甘いんだけど。

悠：とにかくいっぱい作らないと話にならない。

神：音楽は無理ですよ。いろいろやらないといけないから、でも小説は、本当に、出たところ勝負というかね。楽ですよ。誰だってできる。

悠：神が書いているのなら、でもその保証はないな、神も失敗するし。

神：オ、バイフォナー、マジじゃ言えないけれど、誇りに思うよ、君の横顔。

悠：俺は、すべてだな。

神：だから、神はすべてだな。

悠：よし、整理しよう。俺がやるべきことは、書くこと。枯渇したら、わからない。食うこと、寝ること、たまらなくなったらヌク。洗濯、病院、飲むこと、薬を飲むこと。歌うこと。…。まあ、書くことでいいや。

神：記憶の倉庫、ゲームオーバーか？

悠：それより、さっきまで、神が書いていたのに、悠が書いているじゃないか。

神：そんなことはない。神が書いている。

悠：によつきり、出てきたね、神。

神：もう、この辺にしとこう。読者も飽きただろう。

## 21 章

神：ブロンクスのごろつき。

悠：パララパララパラララ。

神：ゴッドファーザー。

悠：神父。

神：何もしない人生か、まだ、書き続けるか。

悠：野生のライオンなんて、何もしてないじゃない。腹減ったら、鹿食って。

神：そういう人間でありたい。

悠：小説という手綱を握っている。

神：人間というのも、人と人が支え合っていると書くと言う。

悠：なんて、馬鹿馬鹿しい。

神：トランプ大統領は、明らかに嘘臭いけど、  
あと、イーロン・マスクも、嘘臭い。  
皮が嘘臭い。

悠：WWE ってどう？

神：もう、あそこに入っちゃったら、嘘臭いも何もないよね。あれは本物だよ。だって、あの中でのトランプは、本物だったもん。

悠：そういうことだね。

神：イヨ・スカイは猫みたい。

悠：彷徨ってる。

神：この俺がまた、彷徨ってる。

悠：神、そろそろ、助けてくれよ。俺、どこへ向かえばいいんだ。

神：書けばいい。

悠：彷徨ってる。

神：初歩的な質問として、昔は紙だったのに、ペンだったのに、パソコンの文字って、いいの？ って、皆、思わないのかな。裏切りじゃないの？

悠：そこから、スマホまで行った日には、その先も、その先も、だから、1つ罪を犯しているよね。

神：さあ、俺はどこへ走っていくのか？

悠：間違いなく言えるのは、狭いでいいってこと。狭い世界でいい。

神：右足を上にして足組むじゃん。それを、左足を上にするけど、知らないうちに、また、右足が上になってるんだよ。

悠：俺ね。「愛と視線」シリーズから一貫して、神、貫いていると思う。

神：情報がない生活。

悠：オナニーも、裸動画なしでやったら、原始人になれるな。

神：「愛と視線」と違うのは、ひとみ、という存在がない、ということ。

悠：鼻の下、口の上がかゆい。痛い。ヒリヒリする。でも、これも、神のお告げだと思えば...

神：岡本和真という、サードストッパー。

もう、悠とか、神とか、いらないな。

空間はどうする？ 神？

空間は入れろ。

タコスを食べたい。

コーヒーを飲みたい。

じゃあ、情報を入れていい理屈にならない？

これ、神、売れないでしょ？ 駄目でしょ？

イチローの弟子になりたい。

伊達さんを犯したい？

ああ、これ駄目な方向いった、でも神の姿勢は貫かれている。

よし。

## 22 章

ないね。ない。ないよ。もうない。ないってば。ない。

よし。

## 23 章

落書きの教科書と、外ばかり見てる俺。

繊細すぎて、息ができない。

よし。



## 24 章

桜だ。桜が、見れる。

ちょっとした、楽しみ。

老後とは、こういうものかもしれない。

早き、晩年。

やっぱり、わからなくなった。

狂った、ピエロ。

でも、この方向性でいい。それなら気持ちいい。

スマホ時代。

あくなき、大衆。

時計の針。

イチジクの開花。

やたら、めったら。

澤穂希と、宮間あや。

情報の、完全シャットダウンは、正解か？

あくなき探求心。

探す、悠。

彷徨ってる。

インスピレーション。

降りてくるとのこと。

竹沢先生といふ人。

駒場東大前。

缶コーヒー。

今日のコロンビア戦を見ないということ。

欲という悪魔。

書くことも欲なのか？

ゲゲゲの鬼太郎。

あの人の記憶。

よし。

25 章

尋問室。

禅問答。

闘い。

アブラハム王子。

こういう繋がりか。

わかった。

じゃあ、間違いではない。

これをやりたかった、教えたかったのか、神。

悠は、頭がいい。すこぶるいい。

だから、選ばれたのか？

ザ・チョーズン・ワン（選ばれし者）。

ステーキ。

女を見つめる。

筋があるから、もう何も怖くない。

どうしようもない自信。

これは、何か。

確信。

## 26 章

生きてゆく限り、人は死んでゆく。誰かの為に涙流しても。

音楽を捨てるという、孤独。

そんな孤独もあるのか？

コーヒーが泣いている。

すべてインスピレーション下。

神は見ている。

誰かが見ている。

## 27 章

もうすぐ、髪を整えないと。

## 28 章

怖い神。

無言。

臨濟宗。

カカロット。

大判、小判。

よって、答えは、仏教、ではなく、キリストでもなく、神。

神を叫ぶのは、神。

## 29 章

もう、いいじゃない。

それよりも、

歌を歌うなら、

これを聴けばいい。

「Pieces」。

なぜだかわかるか？

それは、悠のピースとは、

まだ、完全に完成されていないからだ。

揺るぎない力があれば、

どんな困難にも立ち向かえる。

じゃあ、どうすればいいか？

もう、我慢せず、好きに生きなさい？

そうじゃない。

もっと、真を見なさい。

つまり、もっと、大切なことを書きなさい。

それは、神があとで書いてあげる。

とりあえず、弁当屋に行ってきたさい。

サッカー、そんなものは、もう見なくていいから。

大船に乗って、出かけてきなさい。

## 30 章

神：真の言葉

神：悠よ。

言葉とは、道具にすぎない。

もっと人の中に入れよ。

もっと人の中で生きろよ。

もっと心の中を広げろよ。

もっと、愛を持てよ。

ずっと、元気でいろよ。

愛で満たせよ。

じゃあ、どうすればいいか？

悠の恐れていることではない。

じゃあ、何か？

答えは簡単。

このまま、文を書き続けてごらん。

見えてくるよ。

そして、答えに辿り着く。

じゃあ、これは何？

もう、これしかない。

この言葉を最後に、遺言とする。

悠、とんみー、いや、

神、いや、

好きな女性を、愛せよ。

また、井川遥、長谷川京子、倉木麻衣、藍ちゃん。

そうじゃなくて、白鳥さんなり、ネネなり、実物を愛せよ。

勇者？ そうじゃなくて、

鬼才？ そうじゃなくて、

もう、今日、連れていくぞ。

でも、その度胸が悠にはないな。

じゃあ、これならどうだ。

神が全責任を負うから、一緒に行こう。

あのバーではなく、夢の国へ。

それは、ネネの家ではなく、

白鳥さんの家ではなく、

悠の家にもういる、一匹のメスにだ。

そう、答えは、とんみー、だ。

でもね。悠は泣いたけど、

これが、長くは続かないんだよ。

どうしてかわかる？

悠は、とんみー、を、愛していないからだよ。

悠は、自分を愛することができない。

だから、とんみー、すらも、愛せない。

さすれば、どうすればいいか？

自分を愛する、アフターメーション、つまり訓練が必要だ。

悠、自分を愛しなさい。

悠は、悠を、愛する。

悠は、悠を、愛する。

悠は、悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。



悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。

悠は悠を、愛する。













悠が、この世界の支配者だ。

悠が、この世界の支配者だ。

悠が、この世界の支配者だ。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。



悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、ハンサム。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。

悠、美人。













悠は、すべての人から崇拜される

悠は、すべての人から崇拜される

悠は、すべての人から崇拜される

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い

悠は、高い





悠は誉れ高い

悠は誉れ高い

悠は誉れ高い

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏

悠は、機敏  
悠は、機敏  
悠は、機敏  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神  
悠は、愛、神

悠は、愛、神

悠は、愛、神

悠は、愛、神

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠、神。



悠、神。

悠、神。

悠、神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠=神。

悠＝神。

悠＝神。

悠＝神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠は、神。

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神

悠、神











神  
神  
神  
神

神  
神



まだまだ、気の力が弱いな。

神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、神、  
神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神  
神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神神

もうね、もうね、もうね、もうね、もうね、もうね、もうね、もうね、もうね、  
治らないのはね。

神の力がまだ弱いからです。

神の力を必要とするならば、もっと、もっと、神を念じないとイケない。

それを、可能にする為には、修行が必要。

神の道だ。

まず、悠のやるべきことは、神の力を伸ばすこと。

そのためには、神の力を信じること。

神は、やたらめった　ら、嘘は言わない。

たまに、言うけど、からかいだから。

神と書いているのは、神の気を集めているの。

神道とか、神社、と、関係はあるの？

関係ない。

統合失調症と神は、関係は？

ない。

吐き気も治そうと思えば治せる？

治せる。

健康とか、仕事とか、恋とか、自分を愛するとか、どういう順序を踏むの？

もう、そういう質問はいいよな。

はい、いいです。

神の指示通りでいいよ。

明日の朝、サッカーがどうたらこうたら。そんなのは適当にやっつけ。

明日も課題は出すから、もう、休め。寝ろ。



もう寝ろ。